聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号　MA121101
旧約聖書学演習Ｉａ	矢田　洋子	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	

教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
旧約聖書学の基本文献をじっくり読み、旧約学の基本知識を身に着ける。

＜到達目標＞
旧約聖書神学の基本的用語を理解することにより、旧約学の専門書を読んで理解できるようになる。

＜授業の概要＞
ブルッゲマン『旧約聖書神学用語辞典』のすべての項目を読み、毎回その内容をめぐって議論する。毎回、参加者に内容報告をしていただく。

＜履修条件＞
ヘブライ語の知識はなくてもよい。旧約専攻以外の方々の履修を期待する。

＜授業計画＞

第１回：オリエンテーション
第２回：愛、贖い、アシェラ、アッシリア、荒れ野、安息日、イゼベル、一神教
第３回：祈り、栄光、エジプト、エズラ、選び、エリヤ、エルサレム、王権／王制
第４回：応報、割礼、カナン人、金、神顕現、神の似姿、神の箱、感謝
第５回：義、聞く、犠牲、奇跡、希望、教育、共同体、寄留者
第６回：悔い改め、苦難の僕、苦しみ、契約、契約の書、混沌、祭司
第７回：祭司伝承、サタン、サマリア人、賛美、死、十戒、祝祭、祝福
第８回：出エジプト、主の日、書記、贖罪、神義論、信仰、神殿、申命記神学
第９回：救い、性、聖／聖性、正典、聖なる高台、戦争、創造、族長
第１０回：堕罪、ダビデ、地、知恵、罪、天使、伝承、天上の会議
第１１回：トーラー、嘆き、残りの者、バアル、バビロン、ハンナ、ヒゼキヤの改革
第１２回：復讐、復活、プリム、フルダ、ペルシア、ヘレム、豊穣宗教、暴力
第１３回：捕囚、ミリアム、メシア、黙示思想、モーセ、約束、寡婦、赦し
第１４回：預言者、ヨシヤの改革、ヨベル、隣人、倫理、霊、礼拝、歴史
第１５回：歴代誌史家、災い、主、（全体のまとめ）

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
発表担当者以外も、毎回、あらかじめ辞典項目を読んでおくこと。

＜テキスト＞
W.ブルッゲマン（小友・左近監訳）『旧約聖書神学用語辞典』日本キリスト教団出版局、6820 円。各自で購入。

＜参考書・参考資料等＞
A.ベルレユング／C.フレーフェル（山吉訳）『旧約新約聖書神学事典』教文館、その他は授業で指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
発表の内容、及び、提出していただくレポートによって評価する。共通評価指標（１）を用いる。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
レポートにはコメントを付して返却する。

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号　MA121102
旧約聖書学演習Ｉｂ	矢田　洋子	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	

教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
ヘブライ語の単語に注目して旧約聖書を読む。コンコーダンスと旧約神学用語辞典の利用。

＜到達目標＞
ヘブライ語のコンコーダンスを使えるようになる。旧約神学用語辞典を読みこなす。それらを通して、ヘブライ語を履修していない人、聖書神学専攻でない人でも、「ヘブライ語的に」旧約聖書が読めるようになることを目指す。

＜授業の概要＞
時間を表すヘブライ語に注目することによって、旧約聖書の時間概念を究明する。毎回、参加者に発表をしていただく。

＜履修条件＞
ヘブライ語の知識があらかじめある必要はないが、コンコーダンスや神学用語辞典を利用できる程度にはヘブライ語アルファベットの識別などを身につけていただくことになります。

＜授業計画＞

第１回：オリエンテーション
第２回： te（時）、,mz（時）
第３回： .wy（日）
第４回： deWm（定められた時）
第５回： dymt（常に）
第６回： .lWe（永遠）、de（永遠）、jxn（永遠）、
第７回： tyrja（終わり、将来）
第８回： ;q（終わり）
第９回： rwd（世代）
第１０回： .dq（始めに、前に）、
第１１回： the（今）、egr（瞬間）、,fq（束の間の）
第１２回： hnv（年）、vdj（月）
第１３回： ヘブライ語の時間概念　Jenni, “Time”
第１４回： ヘブライ語の時間概念　ボーマン「時間と空間」
第１５回： まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
発表準備に加えて、毎回、あらかじめ取り上げる単語に注目して聖書を読んでおくこと。

＜テキスト＞
新共同訳聖書、聖書協会共同訳聖書、Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS)

＜参考書・参考資料等＞
コンコーダンス；G.Lisowsky, *Konkordanz zum Hebräischen Alten Testament*; 他。
ヘブライ語辞書；*The Brown-Driver-Briggs Hebrew and English Lexicon*;　W. L. Holladay, *A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament*;
神学用語辞典；*Theological Dictionary of the Old Testament*（17 巻本）の各項目;
ヘブライ語の時間概念について；Jenni, “Time”, *The Interpreter's Dictionary of the Bible,* (1962) pp.642-649; J. Barr, *Biblical Words for Time*, (1962); ボーマン「時間と空間」『ヘブライ人とギリシア人の思惟』(1957) pp.197-253;
その他の参考文献はそのつど指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
発表の内容、及び、提出していただくレポートによって評価する。共通評価指標（１）を用いる。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
レポートにはコメントを付して返却する。

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号　MA123103
旧約聖書原典講読Ⅱａ	田中　光	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
イザヤ書（主にメシア預言と僕預言）の解釈。

＜到達目標＞
イザヤ書の内容をヒブル語で理解し、イザヤ書の神学的メッセージについてより深い洞察を得ること。

＜授業の概要＞
イザヤ書の内容をヒブル語で講読し、解釈についても若干の討論を行う。

＜履修条件＞
ヒブル語を履修していることが望ましい。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション＆イントロダクション
第２回　イザヤ書研究の現状について（主に第二イザヤの研究状況）
第３回　イザヤ書 40 章 1-8 節
第４回　イザヤ書 40 章 9-16 節
第５回　イザヤ書 40 章 17-24 節
第６回　イザヤ書 40 章 25-31 節
第７回　イザヤ書 41 章 1-5 節
第８回　イザヤ書 41 章 6-13 節
第９回　イザヤ書 41 章 14-20 節
第１０回　イザヤ書 41 章 21-28 節
第１１回　イザヤ書 42 章 1-4 節
第１２回　イザヤ書 42 章 5-9 節
第１３回　イザヤ書 42 章 10-17 節
第１４回　イザヤ書 42 章 18-25 節
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
学生は、事前に次回扱うイザヤ書のヒブル語テクストを翻訳し、そこに現れる重要な動詞をパーズしてくること。

＜テキスト＞
特に定めないが、BHS やヒブル語辞書を必ず持参すること。

＜参考書・参考資料等＞
初回授業にて指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
毎回の授業でどの程度予習をしてきたかをチェックする。併せて、期末に提出してもらうレポートによって評価する。共通評価指標（１）に基づいて評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
毎回の授業で、予習の内容について口頭でコメントする。また、期末レポートにコメントを付して返却する。

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号　MA123104
旧約聖書原典講読Ⅱｂ	宮嵜　薫	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	

教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
創世記４２章～４３章（前半）のヘブライ語原典（マソラ本文）を読む。

＜到達目標＞
辞書を用い、ヘブライ語本文の語分析、構文批判等により、テキストを正確に音読でき、文章の意味を深く理解することができる。BHS の脚注記（アパラータス）およびマソラが解読できる。

＜授業の概要＞
創世記「ヨセフ物語」の４２章から４３章（２３節まで）を１節ずつ読む。辞書（BDB）を用い原語を丁寧に分析し、翻訳する。歴史的背景を考慮しつつ、資料説、伝承史等を検討し、文学的特徴、技法とその意味、および神学的メッセージを探る。「ヨセフ物語」が書かれた背景や旧約全体における位置づけも考察する。

＜履修条件＞
ヘブライ語の基礎文法修得者。旧約専攻でなくともよい。

＜授業計画＞

第１回	オリエンテーション		
第２回	創世記	４２：１−５	兄たち、エジプトへ下る
第３回	創世記	４２：６−８	ヨセフ、兄たちと再会する
第４回	創世記	４２：９−１３	ヨセフと兄たちとのやりとり
第５回	創世記	４２：１４−１８	ヨセフ、兄たちを監禁する
第６回	創世記	４２：１９−２２	ヨセフ、末の弟を要求する
第７回	創世記	４２：２３−２８	ヨセフと涙と配慮
第８回	創世記	４２：２９−３３	兄たちの父への報告
第９回	創世記	４２：３４−３６	父ヤコブの悲しみ
第１０回	創世記	４２：３７−３８、４３：１−２	ルベンの申し出、父の反応
第１１回	創世記	４３：３−７	弟ベニヤミンをめぐる葛藤
第１２回	創世記	４３：８−１０	ユダの申し出
第１３回	創世記	４３：１１−１４	父の決断
第１４回	創世記	４３：１５−１９	兄たち、再びエジプトへ下る
第１５回	創世記	４３：２０−２３	ヨセフの執事と兄たちとのやりとり

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
該当箇所の予習（分析、私訳）は、各自ノートに書いて準備した上で、授業に臨むこと。

＜テキスト＞
聖書：Biblia Hebraica Stuttgartensia（BHS）、新共同訳、聖書協会共同訳等の諸翻訳。各自購入。

＜参考書・参考資料等＞
辞書： *The Brown-Driver-Briggs Hebrew and English Lexicon (BDB)* ；文法書：左近義慈／本間敏雄『ヒブル語入門』［改訂増補版］教文館、2011 年。以上は各自購入。参考書：小林洋一編訳『BHS のマフテアハ』ヨルダン社、1999 年；E.ヴュルトヴァイン『旧約聖書の本文研究』鍋谷／本間共訳、日本キリスト教団出版局、2007 年。以上は図書館蔵書を利用する（教員が授業の中で都度指示する）。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業参加度、予習状況と課題発表により総合的に評価する。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～④の内容を重視する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
学生に課した節の分析・訳については授業内で十分に検討を行う。

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号　MA125101
アラム語ａ	佐藤　泉	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
旧約聖書原典の一部はアラム語で書かれており、古代訳の中にはアラム語訳旧約聖書のタルグムがある。そのようなアラム語のテキストを読むためのアラム語文法の基礎を学ぶ。マソラテキストとタルグムの比較を行う基礎を養う。

＜到達目標＞
①アラム語文法の基礎を身につける。②身につけたアラム語文法の基礎を生かし、辞書も用いながら、聖書のアラム語のテキストや古代訳の一つであるタルグムを読むことができるようになる。

＜授業の概要＞
聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（創世記３１：４７・エレミヤ１０：１１・エズラ４：８－２４・５：１－１７など)、アラム語文法を学ぶ。

＜履修条件＞
ヒブル語履修済みであること。

＜授業計画＞

第 1 回：序　アラム語について、言語グループ、時代区分などを話す。
第 2 回：創世記 31：47 を読みつつ、アラム語の名詞・形容詞を学ぶ。
第 3 回：エレミヤ 10：11 を読みつつ、動詞の Peal 形の完了・未完了を学ぶ。
第 4 回：エズラ 4：8－24 の講読(1)　不規則変化の名詞について学ぶ。
第 5 回：エズラ 4：8－24 の講読(2)　動詞の Hapel 形の完了を学ぶ。
第 6 回：エズラ 4：8－24 の講読(3)　動詞の Peal 形の分詞、Hitpeel 形の完了・未完了を学ぶ。
第 7 回：エズラ 4：8－24 の講読(4)　動詞の Pael 形の完了・未完了、Hapel 形の未完了を学ぶ。
第 8 回：エズラ 4：8－24 の講読(5)　動詞の Hapel 形の分詞を学ぶ。
第 9 回：エズラ 4：8－24 の講読(6)　動詞の Pael 形・Hitpeel 形・Hitpaal 形の分詞を学ぶ。
第 10 回：エズラ 4：8－24 の講読(7)　二根字動詞の Peal 形と動詞の不定詞・命令法を学ぶ。
第 11 回：エズラ 5：1－17 の講読(1)　前置詞と代名詞語尾を学ぶ。
第 12 回：エズラ 5：1－17 の講読(2)　二根字動詞の Hapel 形を学ぶ
第 13 回：エズラ 5：1－17 の講読(3)　二根字動詞の Hitpeel 形を学ぶ。
第 14 回：エズラ 5：1－17 の講読(4)　Pê Yôd 動詞の変化を学ぶ。
第 15 回：エズラ 5：1－17 の講読(5)　Pê Nûn 動詞の変化を学ぶ。

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。講読箇所について、マソラテキストのアパラートゥスにも注意を払うこと。

＜テキスト＞
Biblia Hebraica Stuttgartensia；Biblia Hebraica Quinta －20－ Ezra and Nehemiah； Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition
（テキストについては初回授業時に担当者が説明する。）

＜参考書・参考資料等＞
左近義慈編著、本間敏雄改訂増補『ヒブル語入門』［改訂増補版］教文館、2011； William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971； Gustaf Dalman, Grammatik des jüdisch-palästinischen Aramäisch, Darmstadt：Wissenschaftliche Buchgesellschaft , 1960； Marcus Jastrow, A dictionary of Targumim, the Talmud Babli and Yerushalmi, and the Midrashic literature v1, v2, New York: Pardes, 1950

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
予習・復習、積極的な授業参加の状況、講読箇所の発表、単語等に親しむための小テスト等によって成績をつける。なお、評価にあたっては、「共通評価指標（1)」の①～④の内容を重視する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
講読箇所の発表等の後には授業の中で解説等をする。

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号　MA125102
アラム語ｂ	佐藤　泉	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
旧約聖書原典の一部はアラム語で書かれており、古代訳の中にはアラム語訳旧約聖書のタルグムがある。そのようなアラム語のテキストを読むためのアラム語文法の基礎を学ぶ。マソラテキストとタルグムの比較を行う基礎を養う。

＜到達目標＞
①アラム語文法の基礎を身につける。②身につけたアラム語文法の基礎を生かし、辞書も用いながら、聖書のアラム語のテキストや古代訳の一つであるタルグムを読むことができるようになる。

＜授業の概要＞
聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（ダニエル書）、アラム語文法の学びを継続する。さらに、エレミヤ書などのタルグムの講読もする。（箇所は未定。授業中に指示する。）

＜履修条件＞
ヒブル語履修済みであること。

＜授業計画＞

第 1 回：ダニエル書の緒論的知識を確認し、前期の文法の復習をしつつ、ダニエル書の講読に備える。
第 2 回：ダニエル書の講読(1)　Pê ʾ ālep 動詞の Peal 形を学ぶ。
第 3 回：ダニエル書の講読(2)　Pê ʾ ālep 動詞の Hapel 形を学ぶ。
第 4 回：ダニエル書の講読(3)　動詞の変化で音位転換が起こる場合について学ぶ。
第 5 回：ダニエル書の講読(4)　Lāmed ʾ ālep・Lāmed Hê 動詞の変化を学ぶ。
第 6 回：ダニエル書の講読(5)　二重ʿ ayin 動詞の Peal 形を学ぶ。
第 7 回：ダニエル書の講読(6)　二重ʿ ayin 動詞の Hopal 形を学ぶ。
第 8 回：ダニエル書の講読(7)　代名詞語尾つきの動詞の変化を学ぶ。
第 9 回：ダニエル書の講読(8)　喉音を含む動詞について学ぶ。
第 10 回：ダニエル書の講読(9)　特殊な変化をする動詞について学ぶ。
第 11 回：エレミヤ書などの緒論的知識とバビロニア方式の母音記号を確認し、タルグムの講読に備える。
第 12 回：タルグムの講読(1)　バビロニア方式の母音記号で読むことに慣れる。
第 13 回：タルグムの講読(2)　タルグムのアラム語の動詞の変化を学ぶ。
第 14 回：タルグムの講読(3)　アラム語文法を全体的に思い出しつつ読む。
第 15 回：タルグムの講読(4)　原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。講読箇所について、マソラテキストのアパラートゥスにも注意を払うこと。

＜テキスト＞
Biblia Hebraica Stuttgartensia； The Pentateuch according to Targum Onkelos; The Former Prophets according to Targum Jonathan; The Latter Prophets according to Targum Jonathan； Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition
（テキストについては初回授業時に担当者が説明する。）

＜参考書・参考資料等＞
左近義慈編著、本間敏雄改訂増補『ヒブル語入門』［改訂増補版］教文館、2011； William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971； Gustaf Dalman, Grammatik des jüdisch-palästinischen Aramäisch, Darmstadt：Wissenschaftliche Buchgesellschaft , 1960； Marcus Jastrow, A dictionary of Targumim, the Talmud Babli and Yerushalmi, and the Midrashic literature v1, v2, New York: Pardes, 1950

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
予習・復習、積極的な授業参加の状況、講読箇所の発表、単語等に親しむための小テスト等によって成績をつける。なお、評価にあたっては、「共通評価指標（1）」の①～④の内容を重視する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
講読箇所の発表等の後には授業の中で解説等をする。

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号　MA130101
旧約聖書学特研Ｉａ	田中　光	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
詩編の解釈。

＜到達目標＞
詩編の言葉を原点や諸翻訳（古代語訳含む）によって丁寧に読み、その神学的メッセージを理解すること。

＜授業の概要＞
各詩編を次のようなプロセスで読解していく。①詩編のヘブライ語原典の内容を精読し、本文批評的問題を BHS のアパラタスその他によって確認する。②注解書その他によりながら、詩編の類型、歴史的背景、神学的メッセージなどについて討論する。

＜履修条件＞
ヒブル語の講義を受講して基礎文法を習得していることが望ましい。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション&イントロダクション（＋詩編総論①）
第２回　詩編総論②
第３回　詩編１編①　原典の講読
第４回　詩編１編②　解釈に関する討論
第５回　詩編２編①　原典の講読①（前半部分）
第６回　詩編２編②　原典の講読②（後半部分）
第７回　詩編２編③　解釈に関する討論
第８回　詩編３編①　原典の講読
第９回　詩編３編②　解釈に関する討論
第１０回　詩編４編①　原典の講読
第１１回　詩編４編②　解釈に関する討論
第１２回　詩編５編①　原典の講読①（前半部分）
第１３回　詩編５編②　原典の講読②（後半部分）
第１４回　詩編５編③　解釈に関する討論
第１５回　全体の振り返りとまとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
事前に指示された予習（ヒブル語テクストの読解や参考書の読解）をきちんと行って授業にのぞむこと。

＜テキスト＞
特に定めないが、毎回 BHS とヒブル語の辞書を持参すること。

＜参考書・参考資料等＞
初回授業にて指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
各授業における予習・参加の度合いと、期末のペーパー（4000 字程度）によって評価する。評価は「共通評価指標」（１）に基づいて行う。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
各授業での予習に対して口頭でコメントする。併せて、期末のペーパーにコメントを付して返却する。

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号　MA130102
旧約聖書学特研Ｉｂ	田中　光	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
ヤコブ物語の解釈。

＜到達目標＞
ヤコブ物語が持つ神学的意味について深い洞察を獲得すること。

＜授業の概要＞
ヤコブ物語を、ヒブル語原典を参照しつつ、どのように解釈するのが相応しいのかを、様々な観点から（歴史批評的観点、解釈史的観点）から討論する。

＜履修条件＞
ヒブル語を履修していることが好ましい。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション＆イントロダクション
第２回　創世記概説
第３回　創世記 28 章 10-15 節　原典講読
第４回　創世記 28 章 16-22 節　原典講読
第５回　創世記 28 章 10-22 節　解釈に関する討論（歴史批評的観点＋解釈史的観点）
第６回　創世記 29 章 1 節-32 章 1 節　解釈に関する討論（歴史批評的観点＋解釈史的観点）
第７回　創世記 32 章 23-32 節　原典講読
第８回　創世記 32 章 23-32 節　歴史批評的観点からの解釈に関する討論
第９回　創世記 32 章 23-32 節　解釈史の観点からの解釈に関する討論
第１０回　創世記 33 章 1-11 節　原典講読
第１１回　創世記 33 章 12-19 節　原典講読
第１２回　創世記 33 章 1-19 節　解釈に関する討論（歴史批評的観点＋解釈史的観点）
第１３回　創世記 35 章 1-8 節　原典講読
第１４回　創世記 35 章 9-15 節　原典講読
第１５回　創世記 35 章 1-15 節　解釈に関する討論（歴史批評的観点＋解釈史的観点）

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
学生は、事前に次回扱うヒブル語原典を読み、あるいは解釈の討論のための準備をして、授業に臨むこと。

＜テキスト＞
特に定めない。

＜参考書・参考資料等＞
初回授業にて指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
毎回の授業に対する予習と、期末のレポート（4000 字程度）によって評価する。評価は共通評価指標（1）に基づいて行う。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
予習に対して口頭でコメントし、期末レポートにコメントを付して返却する。

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号　MA222101
新約聖書原典釈義Ｉａ	遠藤　勝信	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞通年（a，b）の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている。

＜授業のテーマ＞
ヨハネによる福音書４：４６～５：４７の原典釈義。ギリシア語新約聖書のテクストを歴史的、文学的、神学的文脈に基づいて解釈する方法を学ぶ。

＜到達目標＞
学生が、新約聖書学の基礎（研究史、釈義の方法論）を修得し、テクストと真摯に向き合う姿勢を身につける。

＜授業の概要＞
はじめに近年のヨハネ福音書研究の動向（研究史、方法論）を概観し、釈義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。

＜履修条件＞
新約ギリシャ語原典テクスト読解力を有すること。ギリシャ語中級文法の知識があることが望ましい。

＜授業計画＞

I. 講義を中心に

第０１回　研究史を概観し、近年の研究情況と釈義の諸問題を学ぶ。
第０２回　ギリシャ語新約聖書本文批評の実際。
第０３回　テクストの文法解釈の実際。
第０４回　テクストの文学批評の実際。
第０５回　テクストと歴史批評の実際。
第０６回　ヨハネ1～４章の概要

II. 演習（参加者による釈義の発表とディスカッション）を中心に

第０７回　ヨハネ０４：４６～５４の原典釈義（その１：釈義と解釈）
第０８回　ヨハネ０５：０１～０９の原典釈義（その２：釈義と解釈）
第０９回　ヨハネ０５：０９～１８の原典釈義（その３：釈義と解釈）
第１０回　ヨハネ０５：１９～２４の原典釈義（その４：釈義と解釈）
第１１回　ヨハネ０５：２５～２９の原典釈義（その５：釈義と解釈）
第１２回　ヨハネ０５：３０～３６の原典釈義（その６：釈義と解釈）
第１３回　ヨハネ０５：３７～４０の原典釈義（その７：釈義と解釈）
第１４回　ヨハネ０５：４１～４７の原典釈義（その８：釈義と解釈）
第１５回　総括

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
クラスで取り上げる新約聖書テクストをギリシア語文法に則して読み、準備してクラスに出席すること。

＜テキスト＞
Nestle-Aland (28th ed., 2012), *Novum Testamentum Graece*　各自で購入のこと。

＜参考書・参考資料等＞
R・ブルトマン著、杉原助訳『ヨハネの福音書』、2005 年
R・A・カルペッパー著、伊東寿泰訳『ヨハネ福音書文学的解剖』2005 年
R・ボウカム、浅野淳博訳『イエスとその目撃者たち』2011 年
C.S. Keener, *The Gospel of John- A Commentary vol.1*, 2003.
J. Ramsey Michaels, *The Gospel of John*, 2010.

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業における発表と期末試験（釈義ペーパー [6,000～8,000 文字]）。釈義ペーパーに、新約聖書学の基礎的理解及びテクストへの真摯な取り組みが反映されているかを評価。尚、出席が三分の二を満たさない場合、期末試験の受験を許可しない。レポートは共通評価指標（1）によって評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
学生には釈義の発表を求め、教員はそれに対し批評とともにアドバイスを与える。学生はそのアドバイスに基づいて釈義を見直し、最終的に釈義レポートを完成させることを通して学習のフィードバックを行う。

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号　MA222102
新約聖書原典釈義Ｉｂ	遠藤　勝信	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞通年（a，b）の登録が望ましい。	

教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
ヨハネの黙示録１４：１４～１７：０６までの原典釈義。ギリシア語新約聖書のテクストを歴史的、文学的、神学的文脈に基づいて解釈する方法を学び、テクストと真摯に向き合う姿勢を身につける。

＜到達目標＞
学生が、新約聖書学の基礎（研究史、釈義の方法論）を修得し、テクストと真摯に向き合う姿勢を学ぶ。

＜授業の概要＞
はじめに近年のヨハネ黙示録研究の動向（研究史、方法論）を概観し、釈義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。

＜履修条件＞
新約ギリシャ語原典テクスト読解力を有すること。ギリシャ語中級文法の知識があることが望ましい。

＜授業計画＞

I. 講義を中心に

第０１回　イントロダクション。黙示録の文学ジャンル。
第０２回　黙示録を読む前に（その１）：終末思想と黙示文学
第０３回　黙示録を読む前に（その２）：黙示録の執筆事情
第０４回　黙示録を読む前に（その３）：黙示録の著者、読者
第０５回　黙示録を読む前に（その４）：構造と構成、神学。
第０６回　黙示録１章～１４章までを概観し、釈義の営みにおける課題と観点を確認する。

II. 演習（参加者による発表とディスカッション）を中心に

第０７回　黙示録１４：１４ ～２０ の原典釈義（その１：釈義と解釈）
第０８回　黙示録１５：０１ ～０４ の原典釈義（その２：釈義と解釈）
第０９回　黙示録１５：０５ ～０８ の原典釈義（その３：釈義と解釈）
第１０回　黙示録１６：０１ ～０７ の原典釈義（その４：釈義と解釈）
第１１回　黙示録１６：０８ ～１２ の原典釈義（その５：釈義と解釈）
第１２回　黙示録１６：１３ ～１６ の原典釈義（その６：釈義と解釈）
第１３回　黙示録１６：１７ ～２１ の原典釈義（その７：釈義と解釈）
第１４回　黙示録１７：０１ ～０６ の原典釈義（その８：釈義と解釈）
第１５回　総括

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
クラスで取り上げる箇所のギリシア語テクストを十分読み、準備してクラスに出席すること。

＜テキスト＞
Nestle-Aland (28th ed., 2012), *Novum Testamentum Graece*　各自で購入のこと。

＜参考書・参考資料等＞
佐竹明著『ヨハネの黙示録』（上・下巻）2009 年
R・ボウカム著、飯郷友康・小河陽訳『ヨハネ黙示録の神学』2001 年
R. Bauckham, *The Climax of Prophecy,* 1993.
G. Beale, *The Book of Revelation* (NIGTC), 1999.
D. Aune, *Revelation 6-16* (WBC), 1997.
G. R. Osborne, *Revelation*, 2002.

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業における発表と期末試験（釈義ペーパー [6,000～8,000 文字]）。釈義ペーパーに、新約聖書学の基礎的理解及びテクストへの真摯な取り組みが反映されているかを評価。尚、出席が三分の二を満たさない場合、期末試験の受験を許可しない。レポートは共通評価指標（1）によって評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
学生には釈義の発表を求め、教員はそれに対し批評とともにアドバイスを与える。学生はそのアドバイスに基づいて釈義を見直し、最終的に釈義レポートを完成させることを通して学習のフィードバックを行う。

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号　MA222103
新約聖書原典釈義Ⅱａ	三永　旨従	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
山上の説教を中心にマタイによる福音書の中心的メッセージを模索していきます。

＜到達目標＞
原典で新約聖書を読む力をつけると共に、マタイの神学的特徴を踏まえた上でマタイの教会論を論じることができるようになることを目指します。

＜授業の概要＞
特に、旧約聖書並びにユダヤ教との関連を重視しつつ、山上の垂訓の原典の正確な講読を通して、その構造、中心的テーマを探っていきます。

＜履修条件＞
ギリシャ語１、２を修得済みの者。（聴講生も歓迎します。）

＜授業計画＞

第１回　「嵐を鎮める奇跡」、「十字架」の箇所から見られるマタイの神学的特徴
第２回　「ペテロの信仰告白」の箇所の神学的特徴とマタイ的教会論
第３回　マタイ 5：1～16 の釈義　「幸い」とは何か
第４回　マタイ 5：17～26 の釈義　「律法と義」に関する問題
第５回　マタイ 5：27～48 の釈義　「禁止命令」について
第６回　マタイ 5 章の中心的用語の検討
第７回　マタイ 6：1～18 の釈義　「施し、祈り、断食」について
第８回　マタイ 6：19～24 の釈義　「富」に関して
第９回　マタイ 6：25～34 の釈義　「思い悩むな」について
第１０回　マタイ 6 章の中心的用語の検討
第１１回　マタイ 7：1～12 章の釈義　「求めなさい」について
第１２回　マタイ 7：13～23 の釈義　「狭い門」とは
第１３回　マタイ 7：24～28 の釈義　「家と土台」について
第１４回　マタイ 7 章の中心的用語の検討
第１５回　マタイ 5～7 章の構造に関する検討

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
学生各自が互いに共同し、協力しあってテキストの読みと神学的検討をしてください。

＜テキスト＞
・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE（27 版）に基づいた対観福音書（品切・重版未定のため新本の入手は難しいので、授業にて紹介します。）
・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers”W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧めます。）

＜参考書・参考資料等＞
LXX（70 人訳ギリシャ語旧約聖書）

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
テキストへの積極的かつ、考察的取り組みを通して、マタイに対する理解を深められたかが、評価の基準となります。「共通評価指標（1）」によって評価します。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
試験ではなく、学生各自が個別のテーマについて発表する課題について、フィードバックという形で授業で話し合い、教師がそれらについてコメントするという形態をとります。

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号　MA222104
新約聖書原典釈義Ⅱｂ	三永　旨従	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
山上の説教を中心にマタイによる福音書の神学、特にその教会論を検討する

＜到達目標＞
新約聖書原典釈義Ⅱａの継続として原点の読みに基づいたマタイの教会論に迫る

＜授業の概要＞
新約聖書原典釈義Ⅱａで検討したマタイの特徴をのまとめ、及び旧約との関連を考察する

＜履修条件＞
「新約聖書原典釈義Ⅱａ」を履修ずみであること

＜授業計画＞

第１回　マタイ 5～7 章の構造についての継続議論
第２回　マタイ 5～7 章全般に見られる特徴的用語の検討
第３回　マタイ 5～7 章全般に見られる「天」と「地」についての考察
第４回　マタイが独自に用いる「天国」と「地」との関連について
第５回　主の祈りの中心テーマ
第６回　「偽善」との戦いについての検討
第７回　マタイが独自に用いる「地名」と「地」との関連について
第８回　マタイ 5～7 章全般に見られる「天」と「地」についての考察
第９回　マタイが独自に用いる「地名」と「地」との関連について
第１０回　旧約のイザヤ書との関連
第１１回　『インマヌエル・キリスト論』について
第１２回　旧約のヨシュア記との関連について　1
第１３回　旧約のヨシュア記との関連について　2
第１４回　マタイ 5～7 章の中心をなすテーマについての考察　1
第１５回　マタイ 5～7 章の中心をなすテーマについての考察　2

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
新約聖書原典釈義Ⅱａを参照

＜テキスト＞
・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE（27 版）に基づいた対観福音書（品切・重版未定のため新本の入手は難しいので、授業にて紹介します。）
・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers”W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧めます。）

＜参考書・参考資料等＞
LXX（70 人訳ギリシャ語旧約聖書）

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
テキストへの積極的かつ、考察的取り組みを通して、マタイに対する理解を深められたかが、評価の基準となります。「共通評価指標（1)」によって評価します。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
試験ではなく、学生各自が個別のテーマについて発表する課題について、フィードバックという形で授業で話し合い、教師がそれらについてコメントするという形態をとります。

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号　MA230101
新約聖書学特研Ⅰａ	河野　克也	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
福音書研究の重要な主題として共観福音書問題を取り上げる。

＜到達目標＞
共観福音書問題の研究史についての基礎的な理解を深め、実際に共観福音書間の異同を詳細に検討することによってこの問題の解決についての可能性を探るとともに、個々の福音書の解釈と有機的に関連づけることを目指す。

＜授業の概要＞
共観福音書問題について研究史と主要な解決案を概観し、重要な箇所の事例研究を行う。

＜履修条件＞
新約聖書ギリシア語、新約聖書釈義の履修を終えていること。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション：共観福音書問題への関心（共観福音書問題の迷路？）
第２回　共観福音書問題概観 ①（迷路に入る：Part 1）
第３回　共観福音書問題概観 ②（迷路に入る：Part 2）
第４回　共観福音書問題概観 ③（迷路を探索する：Part 1）
第５回　共観福音書問題概観 ④（迷路を探索する：Part 2）
第６回　マルコ福音書の先発性 ①（マタイおよびルカとの関係性）
第７回　マルコ福音書の先発性 ②（福音書の成立年代と時代背景）
第８回　マルコ福音書の先発性の意義 ①（編集史および史的イエス研究）
第９回　マルコ福音書の先発性の意義 ②（本文批評）
第１０回　Q 仮説（二資料説の根拠の確認）
第１１回　Q 抜きマルコ優先説 ①（Q 仮説の論拠への反論：Part 1）
第１２回　Q 抜きマルコ優先説 ②（Q 仮説の論拠への反論：Part 2）
第１３回　Q 抜きマルコ優先説 ③（ルカによるマタイの使用）
第１４回　共観福音書問題の解決と展望（迷路を抜ける）
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
事前に指定の課題図書を読み、事例研究の箇所について検討しておくこと。

＜テキスト＞
・Nestle=Aland 28th/UBS 5th のギリシア語新約聖書
・佐藤研（編訳）『福音書共観表』（岩波書店、2005 年）※品切・重版未定のため入手困難な場合は担当者がプリントを用意する
その他、授業において資料を配布する。

＜参考書・参考資料等＞
Mark Goodacre, *The Synoptic Problem: A Way Through the Maze* (London: T&T Clark, 2001); Stanly E. Porter and Bryan R. Dyer (eds.), *The Synoptic Problem: Four Views* (Grand Rapids: Baker Academic, 2016).

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席が 2/3 に足りない場合は、成績評価の対象外とする。授業への積極的な参加と期末レポートにより評価する。レポートは 5,000 字以上とする。評価にあたっては、共通評価指標(1)に基づいて評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
コメントを付して返却する。

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号　MA230102
新約聖書学特研Ｉｂ	河野　克也	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
新約聖書における「贖い」

＜到達目標＞
「贖い」について新約聖書の多様な証言を検討し、理解を深める。

＜授業の概要＞
新約聖書の「贖い」の背景として旧約聖書の犠牲祭儀を詳細に検討し、その新約聖書における展開を検討する。

＜履修条件＞
新約聖書ギリシア語、新約聖書釈義の履修を終えていること。

＜授業計画＞

第１回　　オリエンテーション：「贖罪論」をめぐる近年の論争について
第２回　　「贖罪論」と「イエスの犠牲」概念
第３回　　ヘブライ語聖書の背景 ①（犠牲祭儀をめぐる諸理論）
第４回　　ヘブライ語聖書の背景 ②（ヘブライ語聖書における犠牲祭儀）
第５回　　ヘブライ語聖書の背景 ③（ヘブライ語聖書における聖所の意義）
第６回　　ヘブライ語聖書の背景 ④（多様な犠牲祭儀：焼かれる献げ物）
第７回　　ヘブライ語聖書の背景 ⑤（多様な犠牲祭儀：穀物の献げ物と幸福の犠牲）
第８回　　ヘブライ語聖書の背景 ⑥（多様な犠牲祭儀：浄罪の献げ物と賠償の献げ物）
第９回　　ヘブライ語聖書の背景 ⑦（多様な犠牲祭儀：追放儀礼とメタファー的用法）
第１０回　ヘブライ語聖書の背景 ⑧（まとめ）
第１１回　新約聖書における「イエスの犠牲」①（犠牲イエス：Part 1）
第１２回　新約聖書における「イエスの犠牲」②（犠牲イエス：Part 2）
第１３回　新約聖書における「イエスの犠牲」③（その他のキリスト論的メタファー）
第１４回　新約聖書における「イエスの犠牲」④（まとめ）
第１５回　全体のまとめとディスカッション

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
事前に指定された課題図書を読み、ディスカッションに参加できるように用意しておくこと。

＜テキスト＞
・Christian A. Eberhart, *The Sacrifice of Jesus: Understanding Atonement Biblically* (Minneapolis: Fortress, 2011)〔2025 年前半に邦訳出版予定〕。
・河野克也「贖い」「犠牲」、『聖書神学事典』（いのちのことば社、2010 年）〔コピーを授業で配布する〕。
・河野克也「修復的贖罪論の可能性を探る」
・西岡義行（編）『平和をつくり出す神の宣教』（東京ミッション研究所、2020 年）、第 3 章：103-130 頁〔コピーを授業で配布する〕。

＜参考書・参考資料等＞
Stephen Finlan, *Problem with Atonement* (Collegeville: Litrugical Press, 2005); idem, *Options on Atonement in Chiristian Thought* (Collegeville: Liturgical Press, 2007). Joel B. Green, "Theologies of Atonement in the New Testament," in Adam J. Johnson (ed.), *T&T Clark Companion to Atonement* (London: T&T Clark, 2017), pp. 115-34. 浅野淳博『死と命のメタファー』（新教出版社、2022 年）。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席が 2/3 に足りない場合は、成績評価の対象外とする。授業への積極的な参加と期末レポートにより評価する。レポートは 5,000 字以上とする。評価にあたっては、共通評価指標(1)に基づいて評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
コメントを付して返却する。

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号　MA230103
新約聖書学特研Ⅱａ	山口　希生	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞通年(a，b)の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
パウロ神学の根幹となる「ローマ書簡」について、最新の研究に基づいた解説を加える。

＜到達目標＞
ローマ書簡が書かれた歴史的・文化的な背景を理解し、同書簡で展開されるパウロの複雑な神学的議論についての洞察を深める

＜授業の概要＞
前期はローマ書簡の全体像を踏まえた後、本書簡の１章から３章までを学んでいく。学生には当該箇所への様々なアプローチを学んでもらい、同書簡についての自身の研究の成果を発表してもらう。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　イントロダクション＆オリエンテーション
第２回　本書簡の執筆背景：誰に対し、なぜ書かれたのか
第３回　解釈史
第４回　本書簡の全体像：構造分析
第５回　本書簡の文化的背景
第６回　ローマ書簡 1:1-17（１）
第７回　ローマ書簡 1:1-17（２）
第８回　ローマ書簡 1:18-2:16（１）
第９回　ローマ書簡 1:18-2:16（２）
第１０回　ローマ書簡 2:17-3:8（１）
第１１回　ローマ書簡 2:17-3:8（２）
第１２回　ローマ書簡 3:9-3:31（１）
第１３回　ローマ書簡 3:9-3:31（２）
第１４回　学生発表
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ １回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
指定した聖書箇所について、少なくとも一つの注解書を見ておくこと。

＜テキスト＞
Stanley Stowers, *A Rereading of Romans*, Yale University Press, 1994　（担当者が用意する）

＜参考書・参考資料等＞
適宜授業内で紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席が 2/3 に足りない場合は、成績評価の対象外とする。授業態度、発表、期末試験を総合して評価する。評価にあたっては、共通評価指標(1)に基づいて評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
コメントを付けて返却する。

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号　MA230104
新約聖書学特研Ⅱｂ	山口　希生	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞通年(a，b)の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
パウロ神学の根幹となる「ローマ書簡」について、最新の研究に基づいた解説を加える。

＜到達目標＞
近年の様々な研究成果に触れて、ローマ書簡全体についての深い知見を得ること。

＜授業の概要＞
ローマ書簡の 4 章以降を学んでいく。学生には同書簡についての研究の成果を発表してもらう。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　イントロダクション＆オリエンテーション
第２回　ローマ書簡 3:27-5:11（１）
第３回　ローマ書簡 3:27-5:11（２）
第４回　ローマ書簡 5-8 章（１）
第５回　ローマ書簡 5-8 章（２）
第６回　ローマ書簡 5-8 章（３）
第７回　ローマ書簡 5-8 章（４）
第８回　学生発表
第９回　ローマ書簡 9-11 章（１）
第１０回　ローマ書簡 9-11 章（２）
第１１回　ローマ書簡 9-11 章（３）
第１２回　ローマ書簡 12-15 章（１）
第１３回　ローマ書簡 12-15 章（２）
第１４回　ローマ書簡 12-15 章（３）
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
指定した聖書箇所について、少なくとも一つの注解書を見ておくこと。

＜テキスト＞
Stanley Stowers, *A Rereading of Romans*, Yale University Press, 1994　（担当者が用意する）

＜参考書・参考資料等＞
適宜授業内で紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席が 2/3 に足りない場合は、成績評価の対象外とする。授業態度、発表、期末試験を総合して評価する。評価にあたっては、共通評価指標(1)に基づいて評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
コメントを付けて返却する。

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号　MB111103
組織神学特講Ⅱａ	須田　拓	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞ 学期毎の登録可	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
贖罪論の諸相を学ぶことを通して、教会が宣べ伝えてきた福音の中心について深い教義学の理解を持つことを目指す。

＜到達目標＞
贖罪という信仰の重要なテーマについて、特に現代神学にどのような議論があるのかを知り、自らこの問題について考えることができるようになる。

＜授業の概要＞
贖罪論について講義する。論点を整理し、古代から宗教改革期までの議論を概観した上で、現代の様々な神学者の贖罪理解を講義する。それを踏まえて、あるべき贖罪論の姿を模索する。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション
第２回　贖罪論の論点 贖罪論の類型とその問題
第３回　古代から中世における贖罪論 エイレナイオスとアウグスティヌス、アンセルムスの場合
第４回　宗教改革期の贖罪論 ルターとカルヴァンの場合
第５回　現代の贖罪論(1) ジェームス・デニーの場合
第６回　現代の贖罪論(2) ロバート・デールとピーター・フォーサイスの場合
第７回　中間総括
第８回　現代の贖罪論(3) カール・バルトの場合
第９回　現代の贖罪論(4) ヴォフルハルト・パネンベルクの場合
第１０回　現代の贖罪論(5) ユルゲン・モルトマンの場合
第１１回　現代の贖罪論(6) トマス・トーランスの場合
第１２回　現代の贖罪論(7) コリン・ガントンの場合
第１３回　現代の贖罪論(8) ロバート・ジェンソンの場合
第１４回　現代の贖罪論(9) 新しいパウロ研究における贖罪理解とそれへの応答
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
前回までの復習をした上で、授業で扱われるテーマについて、自分なりの考えをまとめてみる

＜テキスト＞
特になし

＜参考書・参考資料等＞
授業において、必要に応じて指示する

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
レポート（4,000 字程度）によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標(1)に基づいて評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
個別の求めに応じてコメント、指導する。

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号　MB111104
組織神学特講Ⅱｂ	須田　拓	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞ 学期毎の登録可	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
キリスト論の諸相を学ぶことを通して、現代神学の議論に触れ、教会が宣べ伝えてきた福音についての深い教義学的理解を持つことを目指す。

＜到達目標＞
キリストとはどなたかという信仰の重要なテーマについて、現代神学にどのような議論があるのかを知り、自らこの問題について考えることができるようになる。

＜授業の概要＞
キリスト論について講義する。論点を整理した上で、現代の様々な神学者の議論を概観し、あるべきキリスト論の姿を模索する。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

第１回　　オリエンテーション
第２回　　キリスト論の論点(1)　上からのキリスト論と下からのキリスト論
第３回　　キリスト論の論点(2)　神性と人性の関係（アレキサンドリア型とアンティオケ型）
第４回　　上からのキリスト論　カール・バルトの場合
第５回　　下からのキリスト論　ヴォルフハルト・パネンベルクの場合とその変遷
第６回　　上からのキリスト論と下からのキリスト論(1) コリン・ガントンの場合
第７回　　上からのキリスト論と下からのキリスト論(2) エーミル・ブルンナーの場合
第８回　　上からのキリスト論と下からのキリスト論(3) その他の神学者の場合
第９回　　中間総括
第１０回　神性と人性(1) カール・バルトの場合（アンヒュポスタシアとエンヒュポスタシア）
第１１回　神性と人性(2) ヴォルフハルト・パネンベルクの場合
第１２回　神性と人性(3) イングランド・ピューリタンの神学者の場合
第１３回　神性と人性(4) コリン・ガントンの場合
第１４回　キリスト論に関するその他の論点について
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
前回までの復習をした上で、授業で扱われるテーマについて、自分なりの考えをまとめてみる

＜テキスト＞
特になし

＜参考書・参考資料等＞
授業において、必要に応じて指示する

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
レポート（4,000 字程度）によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標(1)に基づいて評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
個別の求めに応じてコメント、指導する。

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号　MB112101
信条学	須田　拓	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞ 前期のみ開講	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
歴史的教会の生み出した諸信条の特色を学ぶ。

＜到達目標＞
古代教会の基本信条および宗教改革期以後の代表的な信条の特色を知り、私たちの教会が受け継いできた信仰について深い理解を持つことができる。

＜授業の概要＞
信条の歴史的背景を概説した上で、各信条・信仰告白を丁寧に読む。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション
第２回　信条とは何か、信条学とは
第３回　基本信条(1) 使徒信条
第４回　基本信条(2) ニケア・コンスタンティノーポリス信条
第５回　基本信条(3) アタナシオス信条
第６回　ルター派の諸信条(1) アウグスブルク信仰告白
第７回　ルター派の諸信条(2) 大教理問答・小教理問答
第８回　ルター派の諸信条(3) 和協信条
第９回　改革派の諸信条(1) 第一スイス信仰告白
第１０回　改革派の諸信条(2) 第二スイス信仰告白、ジュネーヴ教会信仰問答
第１１回　改革派の諸信条(3) ハイデルベルク信仰問答、その他
第１２回　英国の諸信条(1) スコットランド信条、英国国教会３９箇条
第１３回　英国の諸信条(2) ウェストミンスター信仰告白とサヴォイ宣言
第１４回　メソディスト教会とバプテスト教会の信仰告白
第１５回　日本基督教団信仰告白

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
授業で扱う信条・信仰告白を読んでくること。

＜テキスト＞
特になし。

＜参考書・参考資料等＞
『信条集』前後篇, 新教出版社（新教セミナーブック 4）
その他、必要に応じて授業の中で指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加状況およびレポートによって評価する。共通評価指標(1)に基づいて評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
提出されたレポートについては、個別の求めに応じてコメントし、指導する。

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号　MB121101
組織神学演習Ｉａ	芳賀　力	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞ 通年が望ましいが学期毎の登録可	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
公共的真理としての福音は、啓蒙主義以降の世俗化した近代社会にあって私的な事柄に成り下がっている。どうしたらもう一度福音の権威を取り戻すことができるのか、その方途を探る。

＜到達目標＞
世俗化した文化の中にあっても、確信を持って福音的真理を宣べ伝えることのできる力を身に着ける。

＜授業の概要＞
分担してテキストの要約を発表し、提示されたコメントを手がかりに全員で議論する。

＜履修条件＞
組織神学専攻以外の人も履修することができる。

＜授業計画＞

第１回	オリエンテーション	
第２回	L.Newbigin『ギリシャ人には愚かなれど』	第１章
第３回	同上	第２章
第４回	同上	第３章
第５回	同上	第４章
第６回	同上	第５章
第７回	同上	第６章
第８回	L.Newbigin『宣教学入門』	第１章、第２章
第９回	同上	第３章
第１０回	同上	第４章
第１１回	同上	第５章、第６章
第１２回	同上	第７章
第１３回	同上	第８章
第１４回	同上	第９章
第１５回	同上	第10章

＜準備学習等の指示＞ １回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。
担当に当たっていない場合でも、前もって目を通しておくこと。

＜テキスト＞
L.Newbigin『ギリシャ人には愚かなれど』新教出版社、2007年。同『宣教学入門』日本基督教団出版局、2010年。各自で用意する。

＜参考書・参考資料等＞
必要に応じて授業内で指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
学期末にレポートを提出する。共通評価指標（1）のうち、特に②と④に基づいて評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
発表については授業中にコメントする。レポートについては、個別の求めに応じてコメントし、指導する。

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号　MB121102
組織神学演習Ｉｂ	芳賀　力	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞ 通年が望ましいが学期毎の登録可	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
ポスト・キリスト教時代にあって、キリスト者は「寄留の他国人」であるが、そのような中で、公共の真理としての福音を物語る聖書の民の使命と課題について考える。

＜到達目標＞
非キリスト教的な文化の中にあっても、確信を持って福音的真理を宣べ伝えることのできる力を身に着ける。

＜授業の概要＞
分担してテキストの要約を発表し、提示されたコメントを手がかりに全員で議論する。

＜履修条件＞
組織神学専攻以外の人も履修することができる。

＜授業計画＞

第１回	S.Hauerwas『平和を可能にする神の国』	第１章
第２回	同上	第２章
第３回	同上	第３章
第４回	同上	第４章
第５回	同上	第５章
第６回	同上	第６章
第７回	同上	第７章
第８回	同上	第８章
第９回	S.Hauerwas/W.H.Willimon『旅する神の民』	第１章
第１０回	同上	第２章
第１１回	同上	第３章
第１２回	同上	第４章
第１３回	同上	第５章
第１４回	同上	第６章
第１５回	同上	第７章

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
担当に当たっていない場合でも、前もって目を通しておくこと。

＜テキスト＞
S.Hauerwas『平和を可能にする神の国』新教出版社、1992 年。同『旅する神の民』教文館、1999 年。教員が用意する。

＜参考書・参考資料等＞
必要に応じて授業内で指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
学期末にレポートを提出する。共通評価指標（1）のうち、特に②と④に基づいて評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
発表については授業中にコメントする。レポートについては、個別の求めに応じてコメントし、指導する。

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号　MB121103
組織神学演習Ⅱａ	神代　真砂実	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞　特になし。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
組織神学の代表的文献であるカール・バルトの『教会教義学』の精読を通して、組織神学的思考を養う。また、20世紀の代表的神学者であるバルトの神学思想の特色について基本的な事柄を理解する。

＜到達目標＞
①高度な神学書の読解力を身に着ける。②バルトの神学的思惟の特徴を理解する。③バルトを通して教義学の特定の課題についての総合的な理解を身に着ける。

＜授業の概要＞
バルトの『教会教義学』から和解論（第二部）の罪論にあたる「人間の怠慢と悲惨」（65 節）を学ぶ。テキストを精読し、その内容についての議論を重ね、また、適宜、解説を加えることで理解を深める。

＜履修条件＞
難しい学びに挑戦し、自分の可能性を広げようとする意欲を持っていること。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション
第２回　テキスト、3～21 頁（65 節　1. 人の子の支配に照らされた罪の人間①）
第３回　同、21～36 頁（同②）
第４回　同、36～46 頁（同③）
第５回　同、47～64 頁（65 節　2. 人間の怠慢①）
第６回　同、64～77 頁（同②）
第７回　同、77～98 頁（同③）
第８回　同、98～114 頁（同④）
第９回　同、114～132 頁（同⑤）
第 10 回　同、132～147 頁（同⑥）
第 11 回　同、147～159 頁（同⑦）
第 12 回　同、159～173 頁（同⑧）
第 13 回　同、174～187 頁（同⑨）
第 14 回　同、188～200 頁（65 節　3. 人間の悲惨①）
第 15 回　同、200～215 頁（同②）

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
演習なので、必ずテキストをよく読んでから出席すること。

＜テキスト＞
カール・バルト、『教会教義学・和解論Ⅱ／３　主としての僕イエス・キリスト　中』、井上良雄訳（新教出版社、オンデマンド）。

＜参考書・参考資料等＞
Karl Barth, *Die kirchliche Dogmatik*, vol. IV, part 2 ; Karl Barth, *Church Dogmatics*, vol. IV, part 2 ; Geoffrey W. Bromiley, *An Introduction to the Theology of Karl Barth*.　その他は授業の中で適宜、紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加度（30%）および小課題（70%）による。共通評価指標に準拠して評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
提出された課題について、個別の求めに応じて講評・指導する。

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号　MB121104
組織神学演習Ⅱｂ	神代　真砂実	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞　特になし。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
前期と同じ。

＜到達目標＞
前期と同じ。

＜授業の概要＞
バルトの『教会教義学』から和解論（第二部）の聖化論である「人間の聖化」（66 節）を学ぶ。テキストを精読し、その内容についての議論を重ね、また、適宜、解説を加えることで理解を深める。

＜履修条件＞
前期と同じ。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション、およびテキスト、217～237 頁（65 節　1. 義認と聖化）
第２回　テキスト、238～251 頁（65 節　2. 聖なる方と聖徒たち①）
第３回　同、251～265 頁（同②）
第４回　同、265～276 頁（同③）
第５回　同、277～294 頁（65 節　3. 随従への召喚①）
第６回　同、294～312 頁（同②）
第７回　同、313～329 頁（65 節　4. 回心への覚醒①）
第８回　同、329～349 頁（同②）
第９回　同、349～355 頁（同③）
第 10 回　同、355～366 頁（同④）
第 11 回　同、367～378 頁（65 節　5. 業の称讃①）
第 12 回　同、378～392 頁（同②）
第 13 回　同、393～409 頁（65 節　6. 十字架の誉れ①）
第 14 回　同、409～421 頁（同②）
第 15 回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
前期と同じ。

＜テキスト＞
前期と同じ。

＜参考書・参考資料等＞
前期と同じ。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
前期と同じ。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
前期と同じ。

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号　MB121105
組織神学演習Ⅲａ	芳賀　力	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞ 通年の登録が望ましいが、学期毎の登録可	

教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
神学史上現れた神の存在証明をすべて顧みる、その上でその是非を問い直す。

＜到達目標＞
神学にはテキストがある。そのテキストの読み方を教会・共同体を視座に捉えて問い直し、神学序説（Pro-legomena）を新たに確立する。

＜授業の概要＞
各回の最初に教員が重要なポイントとなる事項を説明するので、それに基づいて議論し理解を深める。

＜履修条件＞
組織神学専攻以外の人も履修することができる。

＜授業計画＞

第１回	「神学の小径Ⅰ ― 啓示への問い」	第１章
第２回	同上	第２章
第３回	同上	第３章
第４回	同上	第４章
第５回	同上	第５章
第６回	同上	第６章
第７回	同上	第７章
第８回	同上	第８章
第９回	同上	第９章
第１０回	同上	第１０章
第１１回	同上	第１１章
第１２回	同上	第１２章
第１３回	同上	第１３章
第１４回	同上	第１４章、１５章
第１５回	同上	第１６章、１７章

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
各回、前もって目を通しておくこと。

＜テキスト＞
芳賀力『神学の小径Ⅰ ― 啓示への問い』キリスト新聞社, 2009 年　※各自で用意する

＜参考書・参考資料等＞
必要に応じて授業内で指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
学期末にレポートを提出する。共通評価指標（1）のうち、特に②と④に基づいて評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
レポートは、個別の求めに応じてコメントし、指導する。

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号　MB121106
組織神学演習Ⅲｂ	芳賀　力	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞ 通年の登録が望ましいが、学期毎の登録可	

教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
神学史上現れた神の存在証明をすべて顧みる、その上でその是非を問い直す。

＜到達目標＞
神学にはテキストがある。そのテキストの読み方を教会・共同体を視座に捉えて問い直し、神学序説（Pro-legomena）を新たに確立する。

＜授業の概要＞
各回の最初に教員が重要なポイントとなる事項を説明するので、それに基づいて議論し理解を深める。

＜履修条件＞
組織神学専攻以外の人も履修することができる。

＜授業計画＞

第１回	「神学の小径Ⅱ ― 神への問い」	第１章
第２回	同上	第２章
第３回	同上	第３章
第４回	同上	第４章
第５回	同上	第５章
第６回	同上	第６章
第７回	同上	第７章
第８回	同上	第８章
第９回	同上	第９章
第１０回	同上	第１０章
第１１回	同上	第１１章
第１２回	同上	第１２章
第１３回	同上	第１３章
第１４回	同上	第１４章、１５章
第１５回	同上	第１６章、１７章

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
各回、前もって目を通しておくこと。

＜テキスト＞
芳賀力『神学の小径Ⅱ―神への問い』キリスト新聞社, 2012 年　※各自で用意する

＜参考書・参考資料等＞
必要に応じて授業内で指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
学期末にレポートを提出する。共通評価指標（1）のうち、特に②と④に基づいて評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
レポートは、個別の求めに応じてコメントし、指導する。

組織神学専攻・歴史神学関係		授業番号　MB211103
教会史特講Ⅱａ	藤本　満	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
ウェスレーの生涯、メソジスト運動の概要、現代キリスト教への影響を理解する。

＜到達目標＞
１８世紀信仰復興運動のプロテスタント史における位置づけ、現代的意義を確認する。

＜授業の概要＞
ウェスレーに流れ込んだ思想的・信仰的背景を学び、信仰復興運動を指導し、やがてメソジスト教会、それと分岐するホーリネス運動、日本のメソジスト教会の歴史、現代のメソジスト教会の関心事に注目する。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　イギリス宗教改革の特色
第２回　17 世紀アングリカンモラリズムとピューリタニズム
第３回　ドイツ敬虔主義と啓蒙主義
第４回　オックスフォードメソジスト
第５回　ジョージア宣教と挫折
第６回　アルダスゲイト体験の意義
第７回　野外説教とメソジスト運動
第８回　信仰復興運動　その１　英米のリバイバルの特質
第９回　信仰復興運動　その２　賛美と霊性
第１０回　「全き聖化」のリバイバル
第１１回　メソジスト伝道者像
第１２回　カリスマ指導者の死
第１３回　教会化と 19 世紀ホーリネス運動
第１４回　日本メソジスト教会
第１５回　世界のメソジストの動向

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
指定された資料を読む・ゼミ形式のディスカッションが求められる

＜テキスト＞
藤本満『ウェスレーの神学』（Amazon, Kindle 版）各自で購入のこと（絶版であるが、中古で紙の本を手に入れることも可能）。

＜参考書・参考資料等＞
藤本満『わたしたちと宗教改革』（第一巻：歴史）日本基督教団出版局

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
１．授業における討論への積極的参加
２．ウェスレーの生涯における出来事を一つ取り上げ、彼の生涯とメソジストへの意義を論じる。
（A4 用紙、４０字×３０行×３枚程度）
評価にあたっては、共通評価指標（1）①、③の内容を重視する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
履修者は、授業ごとに指定課題への独自の考察が求められる。授業で確認される。

組織神学専攻・歴史神学関係		授業番号　MB211104
教会史特講Ⅱｂ	藤本　満	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
ウェスレーの神学を理解し、現代の教会に当てはめる。

＜到達目標＞
ウェスレー神学の全体像と主要な各論を習得する。

＜授業の概要＞
一次資料を用いながら、ウェスレー神学に特色ある項目を学び、宗教改革者・啓蒙主義・東方教父などと比較研究を試みることで、ウェスレー神学の公同性と独自性を学ぶ。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　先行の恵み（人間論）
第２回　信仰義認
第３回　救いの確証
第４回　選びの教理をめぐっての論争
第５回　聖化その１　論争
第６回　聖化その２　心と生活
第７回　キリスト者の完全
第８回　最後の義認
第９回　教会論
第１０回　サクラメント
第１１回　ウェスレーとルター
第１２回　ウェスレーとカルヴァン
第１３回　ウェスレーと啓蒙主義
第１４回　ウェスレーと東方教会
第１５回　ウェスレー解釈をめぐって

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
指定された資料を読む・ゼミ形式のディスカッションが求められる

＜テキスト＞
藤本満『ウェスレーの神学』（Amazon, Kindle 版）各自で購入のこと（絶版であるが、中古で紙の本を手に入れることも可能）。

＜参考書・参考資料等＞
ウィリアム・エイブラハム「メソジスト入門」（教文館、2024 年）

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
１．授業における討論への積極的参加
２．ウェスレー神学の一項目を取り上げて、論じる。（A4 用紙、４０字×３０行×４枚程度）
評価にあたっては、共通評価指標（1）①、③の内容を重視する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
履修者は、授業ごとに指定課題への独自の考察が求められる。授業で確認される。

組織神学専攻・歴史神学関係		授業番号　MB222103
教理史演習Ⅱａ	本城　仰太	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
様々な教理が、二千年にわたる信条や信仰告白の中にどのように落とし込まれているかを学ぶ。具体的なテーマは「信仰と職制」（テキストの第四章）。

＜到達目標＞
数多くの信条や信仰告白に触れながら（一次史料として配布する）、使徒時代、中世東方と西方、宗教改革期、その後の時代の「信仰と職制」について、論じられるようになる。また、史料を用いる力を養い、関連する教理を論じられるようになる。

＜授業の概要＞
毎回のテーマに関連する史料を配布しての講義、学生による発表（一人当たり 1～2 回）、ディスカッションを行う。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

第１回　ガイダンス、テキストについて
第２回　教会史における三つの職制（監督制、長老制、会衆制）
第３回　WCC の「信仰と職制委員会」、エキュメニカルのために「職制」の違いを乗り越える必要性
第４回　新約聖書時代の「信仰と職制」
第５回　2 世紀と 3 世紀の「信仰と職制」
第６回　東方と西方の「信仰と職制」①東方と西方の職制の違い
第７回　東方と西方の「信仰と職制」②五大司教座（アレクサンドリア、アンティオキア、コンスタンティノポリス、エルサレム、ローマ）
第８回　宗教改革期における「信仰と職制」①「アウグスブルク信仰告白」を中心とするルター派教会
第９回　宗教改革期における「信仰と職制」②「第二スイス信仰告白」を中心とする改革派教会
第１０回　宗教改革期における「信仰と職制」③「三九箇条」を中心とするイングランド教会
第１１回　宗教改革期における「信仰と職制」④アメリカやその他の地域における教会
第１２回　エキュメニズムにおける「信仰と職制」①プロイセン合同
第１３回　エキュメニズムにおける「信仰と職制」②カナダ合同教会と南インド合同教会
第１４回　エキュメニズムにおける「信仰と職制」③「リマ文書」
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
教会史Ⅰ～Ⅳの関連する事柄や史料をよく復習しておくこと。また配布テキストをよく読んでおくこと。

＜テキスト＞
J. Pelikan, *Credo：Historical and Theological Guide to Creeds and Confessions of Faith in the Christian Tradition,* New Haven and London：Yale University Press, 2003 の第四章「信仰と職制」（初回の授業で訳を配布する）。その他必要な史料は授業中に配布、または指示する。

＜参考書・参考資料等＞
ケリー『初期キリスト教信条史』（服部修訳、一麦出版社、2011 年）

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
講義の出席を前提とし、①授業での議論への積極的な参加、②授業での発表、③期末レポートによって、共通評価指標（１）に基づいて総合的に評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
毎回の授業で質問を受け付け、レポートは採点後、コメントをつけて返却する。

組織神学専攻・歴史神学関係		授業番号　MB222104
教理史演習Ⅱｂ	本城　仰太	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
様々な教理が、二千年にわたる信条や信仰告白の中にどのように落とし込まれているかを学ぶ。具体的なテーマは「聖書、伝統、信条」（テキストの第五章）。

＜到達目標＞
数多くの信条や信仰告白に触れながら（一次史料として配布する）、聖書、伝統、信条について、論じられるようになる。また、史料を用いる力を養い、関連する教理を論じられるようになる。

＜授業の概要＞
毎回のテーマに関連する史料を配布しての講義、学生による発表（一人当たり 1～2 回）、ディスカッションを行う。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

第１回　ガイダンス、テキストについて
第２回　信条と信仰告白の起源
第３回　聖書の中の信条①「シェマー」と「ホモウシオス」の関係
第４回　聖書の中の信条②「唯一の神を信じます」と告白している信仰告白
第５回　聖書の中の信条③フィリピ 2 章のキリスト論「僕の形」
第６回　信条と信仰告白の中の聖書①「証拠聖句」としての機能
第７回　信条と信仰告白の中の聖書②「聖書のみ」の原理
第８回　信仰告白と正典の問題①「正典」の範囲をどう決めるか（聖典、第二聖典、外典）
第９回　信仰告白と正典の問題②「唯一の基準」
第１０回　聖書解釈の信仰告白的な基準①ニカイア・コンスタンティノポリス信条「造られず、生まれ、父と同本質」と「彼の王国は終わることがないだろう」の解釈
第１１回　聖書解釈の信仰告白的な基準②教会的な基準
第１２回　聖書解釈の信仰告白的な基準③聖書の歴史批評的研究と逐語霊感説の影響
第１３回　聖書解釈の信仰告白的な基準④プロテスタント教会の解釈原理
第１４回　聖書解釈の信仰告白的な基準⑤「信仰の基準」との関係
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
教会史Ⅰ～Ⅳの関連する事柄や史料をよく復習しておくこと。また配布テキストをよく読んでおくこと。

＜テキスト＞
J. Pelikan, *Credo：Historical and Theological Guide to Creeds and Confessions of Faith in the Christian Tradition,* New Haven and London：Yale University Press, 2003 の第五章「聖書、伝統、信条」（初回の授業で訳を配布する）。その他必要な史料は授業中に配布、または指示する。

＜参考書・参考資料等＞
ケリー『初期キリスト教信条史』（服部修訳、一麦出版社、2011 年）

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
講義の出席を前提とし、①授業での議論への積極的な参加、②授業での発表、③期末レポートによって、共通評価指標（１）に基づいて総合的に評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
毎回の授業で質問を受け付け、レポートは採点後、コメントをつけて返却する。

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号　MB321101
実践神学演習ａ	小泉　健	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
前期はボーレン『説教学』をテキストに、説教学の基本的な諸課題について考察する。

＜到達目標＞
聖霊論的思考とボーレンの説教学の土台を理解し、自分なりの説教の神学を身につけること。

＜授業の概要＞
毎回発表担当者が割り当てられた箇所についての要約とコメントをし、その上で討論を行う。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション　ボーレンの説教学の位置と全体構造
第２回　第一章　情熱としての説教
第３回　第二章　困惑　第Ⅰ節、第Ⅱ節
第４回　第二章　困惑　第Ⅲ節、第Ⅳ節
第５回　第三章　予備的諸問題
第６回　第四章　聖霊　第Ⅰ節
第７回　第四章　聖霊　第Ⅱ節、第Ⅲ節
第８回　第五章　名　第Ⅰ節、第Ⅱ節
第９回　第五章　名　第Ⅲ節、第Ⅳ節、第Ⅴ説
第１０回　第六章　聖書　第Ⅰ節、第Ⅱ節、第Ⅲ節、第Ⅳ節
第１１回　第六章　聖書　第Ⅴ節、第Ⅵ節
第１２回　第七章　言葉と霊　第Ⅰ節、第Ⅱ節
第１３回　第七章　言葉と霊　第Ⅲ節、第Ⅳ節
第１４回　第八章　釈義とコミュニケーション研究の間にある説教
第１５回　ボーレンの説教学と日本の説教

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。

＜テキスト＞
R. ボーレン『説教学』日本基督教団出版局、1977 年。絶版なので、担当者が用意する。

＜参考書・参考資料等＞
授業の中で担当者が紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
発表、討論への参加によって評価する。評価は、共通評価指標（1）の全体による。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
発表に対しては授業の中で応答や指導を行う。討論に対しても随時応答する。

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号　MB321102
実践神学演習ｂ	小泉　健	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
後期は家山華子『牧会の理論と自洗における聖書の役割』を軸に、最近の牧会理論について考察する。

＜到達目標＞
ヘルムート・タケの牧会論を理解すること。自分なりの牧会の神学を構想すること。

＜授業の概要＞
毎回発表者が割り当てられた箇所についての要約とコメントをし、その上で討論を行う。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション　20 世紀の牧会学について
第２回　序論
第３回　第一章　牧会学における理論と実践の相克の歴史
第４回　第二章　戦後日本の神学教育における牧会学の変遷
第５回　第三章　エードゥアルト・トゥルンアイゼンの「断絶線」の概念
第６回　トゥルナイゼン『牧会学Ｉ』第七章
第７回　第四章　ヘルムート・タケの「聖書に方向づけられた牧会」
第８回　ヘルムート・タケ『疲れた者たちと時に語って語り合う』第Ｉ部第２章
第９回　第五章　牧会における聖書の役割と目的
第１０回　J. E. アダムズ『カウンセリングの新しいアプローチ』第四章
第１１回　第六章　牧会的対話のプロセスを基礎づける
第１２回　ヘルムート・タケ『生きることの助けとしての信仰の助け』第Ⅲ部第１章
第１３回　結論
第１４回　ラウター、メラー「ヘルムート・タケ」『第２次世界大戦後の牧会者たち』
第１５回　タケの牧会学と日本の牧会

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。

＜テキスト＞
家山華子『牧会の理論と実践における聖書の役割――ヘルムート・タケとの対話を通して』かんよう出版
これ以外の文献は担当者が用意する。

＜参考書・参考資料等＞
授業の中で担当者が紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
発表、討論への参加によって評価する。評価は、共通評価指標（1）の全体による。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
発表に対しては授業の中で応答や指導を行う。討論に対しても随時応答する。

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号　MB322101
臨床牧会教育ａ	ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず	

＜学位授与方針との関係＞
[DP2] 伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中で的確に対応することができる

＜授業のテーマ＞
病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。

＜到達目標＞
自分の牧会者像を明確にすること。

＜授業の概要＞
救世軍ブース記念病院を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。

＜履修条件＞
講義は登録者２人以上から６人未満で成立する。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション
第２回　自叙伝の発表
第３回　牧会を考える映画を見る。
第４回　第３回の授業で見た映画のディスカッションを行う。
第５回　院長による精神病理の講義。病院見学。

第６回から第１５回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。

＊病棟で患者と面接を行い、ケアを与えることを学ぶ。

＊面接記録をスーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。

＊各学生によるケース提出とディスカションを行う。

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
遅刻をしないこと。
休まないこと。

＜テキスト＞
必要に応じて配る。

＜参考書・参考資料等＞
聖書

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
実習の参加度によって評価する。期末面談によって評価する。出席が 2／3 に満たない者は評価の対象としない。「共通評価指標（1)」によって総合的に評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
グループスーパービジョンと個人スーパービジョンでフィードバックする。

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号　MB322102
臨床牧会教育ｂ	ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず	

＜学位授与方針との関係＞
[DP2] 伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中で的確に対応することができる

＜授業のテーマ＞
病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。

＜到達目標＞
自分の牧会者像を明確にすること。

＜授業の概要＞
救世軍ブース記念病院を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。

＜履修条件＞
臨床牧会教育ａを終えていること。
講義は登録者２人以上から６人未満で成立する。

＜授業計画＞

＊各回、各病棟におもむき、患者と出会い、カウンセリングを行う。

＊面接記録（逐語記録）をつくり、スーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントを得、話し合いをする。

＊各自のケース・リポートをし、ケース・スタディをする。

第１回から第１５回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
遅刻をしないこと。
休まないこと。

＜テキスト＞
必要に応じて配る。

＜参考書・参考資料等＞
聖書

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
実習の参加度によって評価する。期末面談によって評価する。出席が 2／3 に満たない者は評価の対象としない。
「共通評価指標（1）」によって総合的に評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
グループスーパービジョンと個人スーパービジョンでフィードバックする。

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号　MB333101
キリスト教教育特研ａ	長山　道	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞　学期ごとの登録可	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
キリスト教教育に関する宗教改革期の著作を読み、今日の教育や教会に与えた意義の大きさを知る

＜到達目標＞
宗教改革期の文書を理解し読みこなせるようになる。プロテスタンティズムが現代まで教育に与えている影響力を理解する

＜授業の概要＞
テキストを精読し、いくつかの発問に回答して理解を深め、ディスカッションを行う

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　「キリスト教界の改善に関してドイツのキリスト者貴族に宛てて」１　“霊的階級”の問題
第２回　「キリスト教界の改善に関してドイツのキリスト者貴族に宛てて」２　改革の必要性
第３回　「キリスト教界の改善に関してドイツのキリスト者貴族に宛てて」３　廃止されるべきこと
第４回　「キリスト教界の改善に関してドイツのキリスト者貴族に宛てて」４　悪しき習慣
第５回　「キリスト教界の改善に関してドイツのキリスト者貴族に宛てて」５　大学の改革
第６回　「キリスト教界の改善に関してドイツのキリスト者貴族に宛てて」６　信仰者の生き方
第７回　「ドイツ全市の参事会員に宛てて、キリスト教学校を設立し、維持すべきこと」１　学校設立の理由
第８回　「ドイツ全市の参事会員に宛てて、キリスト教学校を設立し、維持すべきこと」２　聖書の重要性
第９回　「ドイツ全市の参事会員に宛てて、キリスト教学校を設立し、維持すべきこと」３　救いのための学校
第１０回　「人々は子どもたちを学校へやるべきであるという説教」１　背景と課題
第１１回　「人々は子どもたちを学校へやるべきであるという説教」２　礼拝（神奉仕）への教育
第１２回　「人々は子どもたちを学校へやるべきであるという説教」３　霊的な益と害
第１３回　「人々は子どもたちを学校へやるべきであるという説教」４　この世的な益と害
第１４回　「人々は子どもたちを学校へやるべきであるという説教」５　学校の意義
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
テキストを熟読してくること。不明な点は調べておくこと

＜テキスト＞
『ルター著作集』第一集第二巻、第九巻（聖文舎、1963 年、1973 年）、ルター研究所編『ルター著作選集』（教文館、2005 年）。担当者が準備する

＜参考書・参考資料等＞
授業内で適宜指示する

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
ディスカッションによって、共通評価指標(1)①～②に基づき評価する

＜課題に対するフィードバックの方法＞
解説、講評、個別のコメントをする

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号　MB333102
キリスト教教育特研ｂ	長山　道	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞　学期ごとの登録可	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
キリスト教教育に関する現代の著作を読み、今日の教会やキリスト教学校における教育について考察する

＜到達目標＞
現代におけるキリスト教教育の課題と展望を理解できるようになる

＜授業の概要＞
テキストを精読し、いくつかの発問に回答して理解を深め、ディスカッションを行う

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション
第２回　世界の秘密を見つめる子どもたち
第３回　それは子どもにどうしても必要ですか
第４回　成長過程で抱く子どもの五つの大きな問い
第５回　宗教教育は子どもの自立の妨げか
第６回　…それで、どの宗教のことなのか
第７回　自分自身の宗教的社会化
第８回　疑問と不信の念
第９回　子どもは自分で決める権利をどの程度まで持っているか
第１０回　子どもの神学とは
第１１回　子どもは聖書を理解できるか
第１２回　「子どもとともに祈る」とは
第１３回　子どもは教会を必要としているか
第１４回　今後に向けての展望
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
テキストを熟読してくること。不明な点は調べておくこと

＜テキスト＞
フリートリヒ・シュヴァイツァー（吉澤柳子訳）『子どもとの宗教対話』（教文館、2008 年）。担当者が用意する

＜参考書・参考資料等＞
授業内で適宜指示する

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
ディスカッションによって、共通評価指標(1)①～②に基づき評価する

＜課題に対するフィードバックの方法＞
解説、講評、個別のコメントをする

専攻間共同科目		授業番号　MC122101
アジア伝道論演習ａ	飯田　仰	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	

教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
今日の伝道（宣教）学について、及び関連する課題について学ぶ。

＜到達目標＞
履修者が伝道（宣教）学の基本的な内容を理解し、その知識を実践において活用できるようになることを目指す。また、伝達の方法論としての異文化コミュニケーションにおいての理解を深め、異文化理解力を向上させる力を身につける。

＜授業の概要＞
伝道（宣教）学とは何かを序論として解説した後、ヒンドゥー教国のインドで長年宣教活動にたずさわったイギリス出身の宣教師、レスリー・ニュービギンの宣教学を一つずつ学ぶ。また、在留外国人とのコミュニケーションを視野に入れた異文化理解力の向上を図るための探究を、エリン・メイヤーの書籍を通して行う。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

第１回　伝道論（宣教学）とは何かについて：聖書神学的及び組織神学的見解
第２回　伝道論（宣教学）の歴史的経緯と現状について、ニュービギンの宣教学について
第３回　ニュービギン『宣教学入門』第１章、第２章
第４回　ニュービギン『宣教学入門』第３章
第５回　ニュービギン『宣教学入門』第４章
第６回　ニュービギン『宣教学入門』第５章、第６章
第７回　ニュービギン『宣教学入門』第７章
第８回　ニュービギン『宣教学入門』第８章
第９回　ニュービギン『宣教学入門』第９章
第１０回　ニュービギン『宣教学入門』第10章
第１１回　メイヤー『異文化理解力』第１章、第２章
第１２回　メイヤー『異文化理解力』第３章、第４章
第１３回　メイヤー『異文化理解力』第５章、第６章
第１４回　メイヤー『異文化理解力』第７章、第８章
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ １回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
指定テキストの該当箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。

＜テキスト＞
レスリー・ニュービギン『宣教学入門』日本キリスト教団出版局、エリン・メイヤー『異文化理解力』英治出版。学生各自で購入する。

＜参考書・参考資料等＞
デイヴィッド・J・ボッシュ『宣教のパラダイム転換（上巻）（下巻）』東京ミッション。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業時の発表、参加度、学期末レポート（5000 字以上）などによって評価する。出席が 2/3 に満たない者は評価の対象としない。共通評価指標①～⑤を重視する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
提出されたレポートにコメントを付して返却する。

専攻間共同科目		授業番号　MC122102
アジア伝道論演習ｂ	飯田　仰	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
中国のキリスト教史及び代表的神学者の思想について学び、今日の中国におけるキリスト教事情について探究する。

＜到達目標＞
履修者は、中国のキリスト教史と神学思想を概観することを通して、中国キリスト教事情の理解を深める。中国キリスト教の現状理解を深めることによって、日本での伝道の糸口を見出すことができるようになる。

＜授業の概要＞
中国キリスト教史を概観し、公認教会と家庭教会の違いについて学ぶ。その後、20 世紀の家庭教会を代表する王明道の生涯と神学思想を学びつつ、アジア文化の中での伝道論について共に考える。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

第１回　中国近現代史、中国におけるキリスト教伝道（宣教）の歴史について
第２回　『はじめての中国キリスト教史』第１章（東シリア教会と中国）
第３回　『はじめての中国キリスト教史』第２章（明清時代のカトリック教会）
第４回　『はじめての中国キリスト教史』第３章（十九世紀中期の中国キリスト教）
第５回　『はじめての中国キリスト教史』第４章（清末の中国社会とキリスト教―一八六〇年から一九一一年までー）
第６回　『はじめての中国キリスト教史』第５章（中華民国の社会とキリスト教―一九一二年から一九四九年までー）
第７回　『はじめての中国キリスト教史』第６章（十九世紀末から日中戦争終結までの日本と中国の教会）
第８回　『はじめての中国キリスト教史』第７章（アジア・太平洋戦争期の「中華基督教団」）
第９回　『はじめての中国キリスト教史』第８章（中華人民共和国におけるキリスト教―一九四九年から現在までー）
第１０回　『生命の冠』第一部（第１章―第３章）pp. 12-89
第１１回　『生命の冠』第一部（第４章－第５章）pp. 90-143
第１２回　『生命の冠』第一部　（第６章－第８章）pp. 144-197
第１３回　『生命の冠』第一部（第９章－第 11 章）pp. 198-237
第１４回　『生命の冠』第二部・第三部 pp. 240-306
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
指定テキストの該当箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。

＜テキスト＞
石川照子他『増補改訂版　はじめての中国キリスト教史』かんよう出版。学生各自で購入する。
王明道『生命の冠』マルコーシュ・パブリケーション。授業の中で教員が指示する。

＜参考書・参考資料等＞
Chloë Starr. *Chinese Theology: Text and Context.* Yale University Press, 2016. Wang Yi and Others. *Faithful Disobedience: Writings on Church and State from a Chinese House Church Movement.* IVP Academic, 2022.

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業時の発表、参加度、学期末レポート（5000 字以上）などによって評価する。出席が 2/3 に満たない者は評価の対象としない。共通評価指標①～⑤を重視する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
提出されたレポートにコメントを付して返却する。

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号　MD120101
修士論文指導演習　旧約神学Ⅰ	田中　光	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
旧約聖書学の範疇で修士論文を作成すること。

＜到達目標＞
修士論文の作成を通して、自らの神学的問いを発見し、その問いと取り組むことによって一つの答えを導き出すこと。

＜授業の概要＞
序盤で論文の書き方を確認し、その後、次のような順で学生に発表していただく。１）興味関心を持つ主題・テクストの選定、２）興味関心を持つ分野についてのリサーチ、３）問いの発見、４）テーゼの発見

＜履修条件＞
2026 年度に旧約聖書神学の分野で修士論文を提出予定の者。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション＆イントロダクション（修士論文作成の意義とプロセスの概観）
第２回　論文執筆の方法①　課題の認識とリサーチについて
第３回　論文執筆の方法②　問いの発見と論文の種類について（説明論文と論証論文）
第４回　論文執筆の方法③　聖書学の文献の種類と利用方法について
第５回　論文執筆の方法④　アウトラインとパラグラフについて
第６回　論文執筆の方法⑤　序、本論、結論それぞれの書き方について
第７回　学生による発表①　興味関心を持つ主題・テクストの選定①
第８回　学生による発表②　興味関心を持つ主題・テクストの選定②
第９回　学生による発表③　興味関心を持つ分野についてのリサーチ①
第１０回　学生による発表④　興味関心を持つ分野についてのリサーチ②
第１１回　学生による発表⑤　興味関心を持つ分野についてのリサーチ③
第１２回　学生による発表⑥　リサーチの継続＋問いの発見とテーゼの可能性の模索①
第１３回　学生による発表⑦　リサーチの継続＋問いの発見とテーゼの可能性の模索②
第１４回　学生による発表⑧　リサーチの継続＋問いの発見とテーゼの可能性の模索③
第１５回　これまでの学びの振り返りと今後の論文作成プロセスの確認

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
論文の書き方についてのレクチャーをきちんと受講した上で、自らの研究に関するリサーチを着実に進めること。

＜テキスト＞
特に定めない。

＜参考書・参考資料等＞
澤田昭夫『論文の書き方』講談社学術文庫、1977 年。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
毎回の授業での発表や授業への貢献の度合いによって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（２）によって評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
発表や課題に対するコメントによってフィードバックする。

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号　MD120102
修士論文指導演習　旧約神学Ⅱ	田中　光	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
修士論文の作成に必要な学びを行うこと。

＜到達目標＞
修士論文の作成。

＜授業の概要＞
これまでのリサーチを踏まえて、いよいよ授業の前半で問いとテーゼをしっかりと言語化する。その後、それに基づいてアウトラインを作成し、内容の執筆にとりかかる。夏休みに入る前に、論文の内容を実際に執筆できるよう、計画的に研究を進める。

＜履修条件＞
2025 年 9 月に旧約聖書神学専攻で修士論文を提出予定の者。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション＆イントロダクション（論文の書き方のおさらい）
第２回　学生による発表①　先行研究の整理
第３回　学生による発表②　問いとテーゼの見通しを言語化する
第４回　学生による発表③　言語化した問いとテーゼの見通しの吟味
第５回　学生による発表④　アウトラインの作成
第６回　学生による発表⑤　アウトラインの吟味
第７回　学生による発表⑥　序の執筆
第８回　学生による発表⑦　私訳の項目の執筆
第９回　学生による発表⑧　本文批評の項目の執筆
第１０回　学生による発表⑨　本論の執筆①（内容の詳しい構想と吟味）
第１１回　学生による発表⑩　本論の執筆②（テーゼの論証に必要な議論の整理）
第１２回　学生による発表⑪　本論の執筆③（1,000 字程度執筆＋内容の吟味）
第１３回　学生による発表⑫　本論の執筆④（更に 1,000 字程度執筆＋内容の吟味）
第１４回　注・文献表の整理（形式の確認など）
第１５回　全体の振り返りと今後の論文作成プロセスの確認

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
割り当てられた課題を踏まえて、発表のために毎回リサーチを欠かさないこと。

＜テキスト＞
特に定めない。

＜参考書・参考資料等＞
必要に応じて指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
毎回の発表と、修士論文の評価によって行う。共通評価指標（２）に基づいて評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
毎回の発表に対するコメントと、修士論文への評価のコメントによってフィードバックする。

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号　MD220101
修士論文指導演習　新約神学Ⅰ	中野　実 河野克也	＜担当形態＞ 複数
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
来年度に修士論文を提出予定の、新約聖書神学専攻の大学院一年生のための演習で、論文テーマを探し出し、論文を書くために必要な力を身につけるためのクラス。

＜到達目標＞
適切な主題を各自が選定することができ、修士論文を書くための技術を身につけることができる

＜授業の概要＞
論文を書くとはどういうことかを学びながら、各自その論文執筆を進めていく。毎回、学生の発表を中心に行われる。

＜履修条件＞
2026 年 9 月に修論を提出予定の学生

＜授業計画＞
第１回　オリエンテーション
第２回　論文を書くとは？
第３回　各自の課題、問題探し。
第４回　その課題、問題に関連するテクスト探し。
第５回　課題テクストについての学び
第６回　テーマの選定、見直し、決定。
第７回　研究のための方法およびツールについて
第８回　資料、先行研究探し。
第９回　先行研究の学び
第１０回　先行研究の学びとそこからの展開
第１１回　問題設定：テーゼへ向かって
第１２回　問題設定：テーゼの吟味
第１３回　題名、目次作成へ向かって
第１４回　議論の組み立て方
第１５回　まとめ。

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
上記の授業計画に基づきながら、各自論文作成を進めていく。そのために十分な時間を割くことが求められる。ただし、論文はモノローグではないので、書物との対話はもちろん、教師、学生との対話も大切にすること。

＜テキスト＞
必要に応じて、指示する。

＜参考書・参考資料等＞
必要に応じて、指示する

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
共通評価指標（2）に基づきつつ、クラスへの出席、課題への積極的参加度などによって総合的に評価する。テーマの選定、課題テクストの学び、先行研究の学び、論文を書く技術を磨くことなどに関しても、十分な努力をしているかどうかが評価の指標となる

＜課題に対するフィードバックの方法＞
コメントシートなどを活用しながら、疑問、課題などを吸い上げ、適宜クラスで取り上げ、応答することにする。

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号　MD220102
修士論文指導演習　新約神学Ⅱ	中野　実 河野克也	＜担当形態＞ 複数
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
今年度前期末に修士論文を提出予定の学生のための演習で、毎回各自の研究内容を発表してもらいながら、研究状況を把握し、指導するためのクラスである。

＜到達目標＞
各自が修士論文を進めていくために必要な手助けが与えられ、論文を仕上げることができる

＜授業の概要＞
論文の執筆段階における、各自の研究発表が中心に進められる。指導教授および参加学生の質問や意見を聞きつつ、論文を仕上げていく。

＜履修条件＞
2025 年 9 月に新約聖書神学専攻で修士論文を提出予定の学生

＜授業計画＞
第１回　オリエンテーション
第２回　問題設定の点検
第３回　資料の点検
第４回　題名、目次、議論の枠組みを整える。
第５回　より明確な問題設定の獲得
第６回　仮の序論の執筆
第７回　研究史に関する発表
第８回　研究史に学びつつ、そこからの展開
第９回　論文のテーゼの発見
第１０回　論文のテーマの点検
第１１回　議論の組み立て
第１２回　議論の組み立ての点検
第１３回　結論を書く。
第１４回　論文のフォーマットの整理、注、文献表の作成
第１５回　まとめ。

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
上記の授業計画に基づきながら、各自論文執筆を進めていく。そのために十分な時間を割くことが求められる。ただし、論文はモノローグではないので、書物との対話はもちろん。教師、学生との対話も大切にすること。

＜テキスト＞
必要に応じて、適宜指示する。

＜参考書・参考資料等＞
必要に応じて、適宜指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
共通評価指標（2）に基づきつつ、クラスへの出席、課題への積極的参与度などによって総合的に評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
コメントシートなどを活用しながら、疑問、課題などを吸い上げ、適宜クラスで取り上げ、応答することにする。

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号　MD320101
修士論文指導演習　組織神学Ⅰ	神代　真砂実	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞　狭義の組織神学の分野で修士論文を執筆する予定の者。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
修士論文執筆のために必要な技能を学ぶこと、および、修士論文の準備をすること。

＜到達目標＞
① 組織神学の論文を書くとはどういうことか、そのために必要な技能や作業は何か、を身に着けること。
② 修士論文執筆に備えての基礎的準備作業（主要文献の読解等）を終えること。

＜授業の概要＞
前半では主に論文執筆の過程を学ぶ。後半では各自の修士論文の準備を進めて貰い、順番に報告・発表して貰う。

＜履修条件＞
2026 年度に修士論文提出予定の者は必修。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション――論文の基本的要件
第２回　発表①：各自の論文の主題について
第３回　論文作成の技法①：テキストの分析――全体的な内容の把握
第４回　論文作成の技法②：テキストの分析――構成を把握する
第５回　論文作成の技法③：テキストの分析――書き方を考える
第６回　論文作成の技法④：主題の決定・文献探しについて
第７回　論文作成の技法⑤：リサーチ・主張（テーゼ）の発見・目次の検討
第８回　論文作成の技法⑥：パラグラフ
第９回　発表②：修士論文の主題と文献について（１）
第１０回　発表③：同（２）
第１１回　発表④：内容の構想について（１）
第１２回　発表⑤：内容の構想について（２）
第１３回　発表⑥：内容の構想について（３）
第１４回　発表⑦：修士論文の主題と文献表と基本構想（１）
第１５回　発表⑧：同（２）

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
授業をきちんと受けること・自分の研究を着実に進めること。

＜テキスト＞
担当者が用意するプリント。

＜参考書・参考資料等＞
泉忠司、『90 分でコツがわかる！　論文＆レポートの書き方』（青春出版社）；小熊英二、『基礎からわかる論文の書き方』（講談社現代新書）。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加度および発表による。主に共通評価指標の①と②によって評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
発表に関し、授業内で適宜コメントする。

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号　MD320102
修士論文指導演習　組織神学Ⅱ	神代　真砂実	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞　狭義の組織神学の分野で修士論文を執筆する予定の者。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
修士論文の作成にあたり、適切な内容と形式について学ぶ。

＜到達目標＞
修士論文を完成・提出すること。

＜授業の概要＞
各自の学びの成果を順に報告して貰うことで内容を検討すると共に、論文の体裁を持つ短い文章を書いて貰いながら、形式面での基本的技法を学ぶ。

＜履修条件＞
2025 年 9 月 12 日の締め切りまでに狭義の組織神学の分野で修士論文を提出予定の者は必修。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション――修士論文の基本的要件の確認
第２回　各自の論文の主題と文献について①
第３回　各自の論文の主題と文献について②
第４回　各自の論文の主題と文献について③
第５回　主要文献の読書報告①
第６回　主要文献の読書報告②
第７回　主要文献の読書報告③
第８回　二次文献から学んだことについての報告①
第９回　二次文献から学んだことについての報告②
第１０回　二次文献から学んだことについての報告③
第１１回　主張（テーゼ）と目次と内容の構想について①
第１２回　主張（テーゼ）と目次と内容の構想について②
第１３回　主張（テーゼ）と目次と内容の構想について③
第１４回　主張（テーゼ）と目次と内容の構想について④
第１５回　形式面の確認・提出の要領について

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
最大限の時間と能力とを傾注すること。

＜テキスト＞
特になし。

＜参考書・参考資料等＞
佐渡島紗織・坂本麻裕子・大野真澄編著、『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド――大学生・大学院生のための自己点検法 29』（大修館書店、2019 年）。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
発表による。修士論文用の共通評価指標を参照して評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
発表について、授業内で適宜コメントする。

組織神学専攻・歴史神学関係		授業番号　MD420101
修士論文指導演習　歴史神学Ⅰ	本城　仰太	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
来春から本格的に修士論文に取り組めるように、修士論文のプロセスを一通り体験する。

＜到達目標＞
来春から本格的に修士論文に取り組むための力を身に着ける。

＜授業の概要＞
修士論文を書いていくためのプロセスを体験する演習を行う。各自のテーマを設定し、史料の発表を行い、ディスカッションをしながら、論文を書いていくための素材を整えていく。最終的に自分のテーマに関する学期末レポートを書く。

＜履修条件＞
歴史神学の分野で修士論文を提出する予定の学生は必修。

＜授業計画＞

第１回　歴史神学とは、神学的テーマの設定方法
第２回　演習：テーマを設定する
第３回　修論テーマ案の発表①
第４回　修論テーマ案の発表②
第５回　演習：史料を探す
第６回　演習：事典・辞書を調査する
第７回　一次史料の発表①
第８回　一次史料の発表②
第９回　一次史料の発表③
第１０回　演習：アウトラインを整える
第１１回　二次史料の発表①
第１２回　二次史料の発表②
第１３回　二次史料の発表③
第１４回　演習：注と参考文献を整える
第１５回　総括

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
『論文の書き方』を復習しておくこと。

＜テキスト＞
澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫１５３）1977 年

＜参考書・参考資料等＞
J. H. アーノルド『歴史』（新広記訳、岩波書店）、N.F.Cantor, R.I.Schneider, How to Study History. 他

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
講義の出席を前提とし、①授業での議論への積極的な参加、②授業での発表、③期末レポートによって、共通評価指標（２）に基づいて総合的に評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
毎回の授業で質問を受け付け、レポートは採点後、コメントをつけて返却する。

組織神学専攻・歴史神学関係		授業番号　MD420102
修士論文指導演習　歴史神学Ⅱ	本城　仰太	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
修士論文の執筆に取り組んでいく。

＜到達目標＞
修士論文を作成し、提出する。

＜授業の概要＞
修士論文のテーマ設定、史料探しを行い、一次史料・二次史料を読み、アウトラインや注と参考文献を整えつつ、修士論文を書いていく。学生による数回の発表とクラスでのディスカッションを行っていく。

＜履修条件＞
歴史神学の分野で修士論文を提出する予定の学生は必修。

＜授業計画＞

第１回　歴史神学とは、神学的テーマの設定
第２回　テーマに関する発表①
第３回　テーマに関する発表②
第４回　テーマに関するディスカッション
第５回　史料に関する発表①
第６回　史料に関する発表②
第７回　史料に関するディスカッション
第８回　一次史料に関する発表①
第９回　一次史料に関する発表②
第１０回　一次史料に関するディスカッション
第１１回　二次史料に関する発表①
第１２回　二次史料に関する発表②
第１３回　二次史料に関するディスカッション
第１４回　アウトライン、注と参考文献に関する発表
第１５回　アウトライン、注と参考文献に関するディスカッション

＜準備学習等の指示＞ １回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
発表を繰り返していくので、指摘事項を受けとめて次の発表に備えること。

＜テキスト＞
澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫１５３）1977 年

＜参考書・参考資料等＞
特になし。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
講義の出席を前提とし、①授業での議論への積極的な参加、②授業での発表によって、共通評価指標（２）に基づいて総合的に評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
毎回の発表毎にコメントをしていく。

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号　MD520101
修士論文指導演習　実践神学Ⅰ	小泉　健 長山　道	＜担当形態＞ 複数
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
修士論文作成のために必要な技能を学び、次年度の論文執筆のための準備をすること。

＜到達目標＞
論文作成に必要な技能を身に着けること。論文のテーマを設定すること。主要な文献を読むこと。

＜授業の概要＞
前半では論文作成の方法を学ぶ。後半では関心のあるテーマの神学的な位置や意味を確認し、研究史を概観し、関連する文献を読み、論文の主題を明確にしていく。

＜履修条件＞
2026 年度に実践神学の分野で修士論文を提出予定である者は必ず履修すること。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション：実践神学とは何か。修士論文とは何か。
第２回　学生の発表：関心のあるテーマについて
第３回　論文作成の方法：テーマの設定と本文の組み立て方
第４回　発表を受けて：テーマを扱うために前提となる知識、神学的な位置や意味について
第５回　論文作成の方法：資料の収集、利用
第６回　発表を受けて：研究史の概観
第７回　学生の発表：研究史を踏まえてのテーマの見直し
第８回　論文作成の方法：テキストの批評
第９回　学生の発表：事典項目の批評
第１０回　論文作成の方法：論文の構成、順序、各部分で何を書くか
第１１回　学生の発表：論文の主題と主要な文献について
第１２回　学生の発表：テキストの精読
第１３回　学生の発表：解くべき問いの発見
第１４回　学生の発表：論文の構想
第１５回　研究計画の策定

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
関心のあるテーマ、もしくは神学者についての文献をすべて読むつもりで、文献の読解を進めること。

＜テキスト＞
必要に応じて担当者が準備する。

＜参考書・参考資料等＞
河野哲也『レポート・論文の書き方入門　第 3 版』（慶應義塾大学出版会）。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加度と発表によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（2）の①～③を重視する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
授業の中で直接講評と指導を行うほか、論文作成のため随時相談に応じる。

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号　MD520202
修士論文指導演習　実践神学Ⅱ	小泉　健 長山　道	＜担当形態＞ 複数
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
修士論文の執筆にあたり、討論を通して理解と考察を深める。

＜到達目標＞
修士論文を執筆し、完成すること。

＜授業の概要＞
各自の研究内容を発表し、その内容について討論する。それと並行して学術論文に必要な形式について学ぶ。

＜履修条件＞
2025 年 9 月に修士論文を提出予定であること。履修しなければ論文の提出はできない。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション――実践神学の修士論文を書くことは何を意味するか
第２回　主題と問題意識を明確にする
第３回　取り組むべき資料・文献を設定する
第４回　論文の構想を整える
第５回　研究史を紹介する
第６回　主要文献の主張を紹介する
第７回　主要文献の主張を吟味する
第８回　主要文献の主張を評価する
第９回　二次文献と対話する
第１０回　本論第１章の発表
第１１回　注、引用、文献表のつけ方
第１２回　本論第２章の発表
第１３回　全体の構成の再考
第１４回　本論第３章の発表
第１５回　序論と結論について

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
時間をかけて主要文献を精読し、理解を深め、自分なりの考察を進めること。

＜テキスト＞
論文の研究対象とする文献のうち主要なもの。

＜参考書・参考資料等＞
論文執筆者ごとに助言する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加度と発表によって評価する。共通評価指標（2）を用いる。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
授業の中で直接講評と指導を行うほか、論文作成のため随時相談に応じる。

聖書神学専攻		授業番号　MD600001
修士論文指導演習聖書神学（長期） a	各指導教授	＜担当形態＞
前期・０単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
学生各自の研究課題に従い、文献の講読や討論などを通じて修士論文を作成する。

＜到達目標＞
適切な主題を設定し、修士論文を書くための技術を身につけつつ、修士論文の作成を進めることができる。

＜授業の概要＞
各自の研究課題に沿って、諸文献の検討、論文のテーゼや構成・内容などについて指導教授と対話しつつ、修士論文の作成にあたる。

＜履修条件＞
聖書神学専攻で長期履修の学生

＜授業計画＞

各指導教授が年度初めに配付する「研究指導計画書」に拠る。

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞

＜参考書・参考資料等＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞

＜課題に対するフィードバックの方法＞

聖書神学専攻		授業番号　MD600002
修士論文指導演習聖書神学（長期） b	各指導教授	＜担当形態＞
後期・０単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
学生各自の研究課題に従い、文献の講読や討論などを通じて修士論文を作成する。

＜到達目標＞
適切な主題を設定し、修士論文を書くための技術を身につけつつ、修士論文の作成を進めることができる。

＜授業の概要＞
各自の研究課題に沿って、諸文献の検討、論文のテーゼや構成・内容などについて指導教授と対話しつつ、修士論文の作成にあたる。

＜履修条件＞
聖書神学専攻で長期履修の学生

＜授業計画＞

各指導教授が年度初めに配付する「研究指導計画書」に拠る。

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞

＜参考書・参考資料等＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞

＜課題に対するフィードバックの方法＞

組織神学専攻		授業番号　MD600003
修士論文指導演習組織神学（長期） a	各指導教授	＜担当形態＞
前期・０単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
学生各自の研究課題に従い、文献の講読や討論などを通じて修士論文を作成する。

＜到達目標＞
適切な主題を設定し、修士論文を書くための技術を身につけつつ、修士論文の作成を進めることができる。

＜授業の概要＞
各自の研究課題に沿って、諸文献の検討、論文のテーゼや構成・内容などについて指導教授と対話しつつ、修士論文の作成にあたる。

＜履修条件＞
組織神学専攻で長期履修の学生

＜授業計画＞

各指導教授が年度初めに配付する「研究指導計画書」に拠る。

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞

＜参考書・参考資料等＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞

＜課題に対するフィードバックの方法＞

組織神学専攻		授業番号　MD600004
修士論文指導演習組織神学（長期） b	各指導教授	＜担当形態＞
後期・０単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
学生各自の研究課題に従い、文献の講読や討論などを通じて修士論文を作成する。

＜到達目標＞
適切な主題を設定し、修士論文を書くための技術を身につけつつ、修士論文の作成を進めることができる。

＜授業の概要＞
各自の研究課題に沿って、諸文献の検討、論文のテーゼや構成・内容などについて指導教授と対話しつつ、修士論文の作成にあたる。

＜履修条件＞
組織神学専攻で長期履修の学生

＜授業計画＞

各指導教授が年度初めに配付する「研究指導計画書」に拠る。

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞

＜参考書・参考資料等＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞

＜課題に対するフィードバックの方法＞

実践神学研修課程		授業番号　ME111201
総合特別講義	小泉　健	＜担当形態＞ オムニバス
後期・４単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP2] 伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中で的確に対応することができる
[DP3] 教会やキリスト教学校等への赴任に向けた召命感が確立している

＜授業のテーマ＞
牧会・伝道上直面する具体的な問題に適切に対応していくために専門家の指導を受ける。

＜到達目標＞
牧会上の典型的な問題とその対策を理解し、自分なりに応用するための基礎を身につけること。

＜授業の概要＞
それぞれ分野の専門家が、テーマごとに二コマを単位として講義を行う。

＜履修条件＞
これまでの学びを総合する重要な授業なので、原則として全回出席すること。

＜授業計画＞

第1回、第2回：	小林 光	「教会付属幼稚園・保育園の使命と課題」
第3回、第4回：	落合建仁	「日本基督教団史Ⅰ（日本基督教団成立前)、(日本基督教団成立後)」
第5回、第6回：	髙橋貞二郎	「学校伝道と教会」
第7回、第8回：	齋藤 篤	「キリスト教の異端とカルトの問題」
第9回、第10回：	篠浦千史	「障がい者と教会」
第11回、第12回：	道家紀一	「日本基督教団 教憲・教規Ⅰ」
第13回、第14回：	小島誠志	「地方伝道」
第15回、第16回：	宮本義弘	「キリスト教から考える部落差別」
第17回、第18回：	洪 性完	「在日コリアンと教会」
第19回、第20回：	朴 憲郁	「エキュメニズムⅡ（東アジアのエキュメニズム)」
第21回、第22回：	加藤幹夫	「牧会者の試練とその克服」
第23回、第24回：	道家紀一	「日本基督教団 教憲・教規Ⅱ」
第25回、第26回：	長山信夫	「日本基督教団史Ⅱ（教団史と紛争史の視点)、(教団紛争とは何であったか？)」
第27回、第28回：	野田 沢	「青年伝道」
第29回、第30回：	山﨑ハコネ	「高齢者ケアと牧会」
第31回、第32回：	近藤勝彦	「東京神学大学史Ⅰ」
第33回、第34回：	近藤勝彦	「東京神学大学史Ⅱ」
第35回、第36回：	春原禎光	「ＩＴと伝道」
第37回、第38回：	山崎忍	「刑務所伝道」

＊講師は予定。
講義は金・土曜の1、2限に行われる。また、1月上旬に開催される『教職セミナー』への参加も課す。

＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。
日本基督教団の補教師試験を受験する者は、「補教師試験の過去問題集」 に目を通すこと。

＜テキスト＞
後日配布する「学科目概要」において各講師が指示する。

＜参考書・参考資料等＞
「テキスト」と同様、「学科目概要」において紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席とレポートによって評価する。共通評価指標（1）の③による。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
必要に応じて個別に相談に来ること。

実践神学研修課程		授業番号　ME121101
説教学演習Ⅰ	小泉　健	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP2] 伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中で的確に対応することができる
[DP3] 教会やキリスト教学校等への赴任に向けた召命感が確立している

＜授業のテーマ＞
説教の本質を問う説教学的議論に触れつつ、説教作成の方法を吟味し学ぶ。

＜到達目標＞
説教作成の方法を職人芸のようにして身につけるだけではなく、つねに説教学的な反省と結びつけながら批判的に習得し、説教者として自己研鑽していくための土台を得ること。

＜授業の概要＞
説教準備の一つ一つの段階の意味について考察しつつ、最初の黙想から説教行為までの実際に取り組む。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　説教と聖書、説教テキストの朗読
第２回　黙想とは何か
第３回　説教学の課題　課題①第一黙想の提出
第４回　釈義と説教準備
第５回　歴史的方法と正典、礼拝における「聖書」、釈義とは何か
第６回　説教学的な聖書の解釈、「解釈と適用」の問題　課題②釈義の提出
第７回　説教黙想とは何か
第８回　釈義と教理、説教と教義学
第９回　説教における説教者　課題③説教黙想の提出
第１０回　会衆をめぐる黙想
第１１回　キリストの物語とわたしたちの生活
第１２回　説教と救済史、終末をめぐる黙想　課題④第二の説教黙想の提出
第１３回　説教の構造と構成
第１４回　説教の始め方と終わり方
第１５回　説教の演述　課題⑤説教原稿の提出

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
聖書全巻を通読しておくこと。日々の祈りと黙想の生活を確立すること。
説教作成の各段階の作業をていねいに行うこと。

＜テキスト＞
聖書

＜参考書・参考資料等＞
R. ボーレン『説教学Ⅰ』『説教学Ⅱ』日本基督教団出版局（絶版なので図書館を利用する）
その他については、テーマごとに教室で指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
説教作成の諸段階で、その都度レポートを提出する。
評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～③を重視する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
課題を素材にして次回の授業を行う。個別に問い合わせに応じる。

実践神学研修課程		授業番号　ME121102
説教学演習Ⅱ	小泉　健	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP2] 伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中で的確に対応することができる
[DP3] 教会やキリスト教学校等への赴任に向けた召命感が確立している

＜授業のテーマ＞
説教学の基本を学び、説教の多様性に触れ、説教理解と説教への取り組みの幅を広げる。

＜到達目標＞
多様な説教のあり方に触れて説教理解を拡大し、説教の取り組みのための助けとすること。

＜授業の概要＞
説教のタイプや説教分析論を手がかりにして、多様な説教のあり方を知り、実際に取り組んでみる。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　説教とは何か
第２回　説教者は説教において何者か？
第３回　聖書と説教の関係
第４回　説教の聞き手をどのように考えるか？
第５回　講解説教と主題説教
第６回　教理的説教とカテキズム説教
第７回　建徳的説教、牧会的説教、悔い改めを迫る説教
第８回　伝道説教とは何か？
第９回　預言者的説教と祭司的説教
第１０回　主日聖書日課による説教
第１１回　キリスト降誕祭とキリスト復活祭の説教
第１２回　結婚式と葬儀の説教
第１３回　説教者の霊性
第１４回　説教の聴き方
第１５回　総括

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
聖書全巻の通読を続けること。今までに行ったことのないタイプの説教の作成に取り組むこと。

＜テキスト＞
聖書

＜参考書・参考資料等＞
W. H. ウィリモン、R. リシャー編『世界 説教・説教学事典』日本基督教団出版局、1999 年。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
発表と授業への参加、レポートによって評価する。共通評価指標（1）の①と③を重視する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
発表に基づいて討論を行う。説教については個別の相談に応じる。

実践神学研修課程		授業番号　ME121203
説教学演習Ⅲ	神代　真砂実	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞　修士論文を提出し、前期課程を修了見込みである者。原則として必修。	

教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）

＜学位授与方針との関係＞
[DP2] 伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中で的確に対応することができる
[DP3] 教会やキリスト教学校等への赴任に向けた召命感が確立している

＜授業のテーマ＞
テキストの釈義から、黙想を経て、説教するに至るまでの過程を、実際に経験しながら学ぶ。

＜到達目標＞
①　説得力のある説教が出来る説教者となるための基本を身に着ける。②説教を評価する批判的視点を獲得する。

＜授業の概要＞
実際にチャペルで説教することを中心とする（1 名につき 2 回）が、その前に、釈義・黙想の基礎を確認し、また、説教の作成にあたって留意しなければならない点を確認する。

＜履修条件＞　前期課程 2 年次に在籍し、修士論文を提出し、前期課程を修了見込みである者。

＜授業計画＞
（履修者の数によって、以下の予定は変更になる可能性があるので注意。）
第１回　オリエンテーション――説得力のある説教とはどのようなものか
第２回　本学チャペル礼拝を想定した 10 分の説教の準備①釈義
　　＊テキストは全員共通（マルコ 1：40～45）とする。
第３回　本学チャペル礼拝を想定した 10 分の説教の準備②黙想
第４回　本学チャペル礼拝を想定した 10 分の説教（2 名）①
第５回　本学チャペル礼拝を想定した 10 分の説教（2 名）②
第６回　本学チャペル礼拝を想定した 10 分の説教（2 名）③
第７回　本学チャペル礼拝を想定した 10 分の説教（2 名）④
第８回　本学チャペル礼拝を想定した 10 分の説教（2 名）⑤
第９回　本学チャペル礼拝を想定した 10 分の説教（2 名）⑥・まとめ
第 10 回　教会での主日礼拝説教（テキストは任意）を想定した 20～30 分の説教（2 名）①
第 11 回　教会での主日礼拝説教を想定した 20～30 分の説教（2 名）②
第 12 回　教会での主日礼拝説教を想定した 20～30 分の説教（2 名）③
第 13 回　教会での主日礼拝説教を想定した 20～30 分の説教（2 名）④
第 14 回　教会での主日礼拝説教を想定した 20～30 分の説教（2 名）⑤
第 15 回　教会での主日礼拝説教を想定した 20～30 分の説教（2 名）⑥・まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
授業とはいえ、説教を語るのであるから、祈りつつ、周到な準備をすることが必要である。また、他の学生の説教のよい聴き手・批評者となるよう心がけること。

＜テキスト＞
聖書（新共同訳）

＜参考書・参考資料等＞
説教の準備に必要なもの（聖書原典および各種翻訳・註解書・黙想集・説教集など）。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
説教に関し、総合的に評価する（70%）。また、批評力も評価する（30%）。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
なされた説教について、授業内で適宜コメントする。

実践神学研修課程		授業番号　ME121204
礼拝学演習	小泉　健	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP2] 伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中で的確に対応することができる
[DP3] 教会やキリスト教学校等への赴任に向けた召命感が確立している

＜授業のテーマ＞
礼拝学の基本、特に教会の礼拝を司る者が身につけるべき礼拝学的思考の特質を学ぶ。

＜到達目標＞
教会や学校で礼拝を整え、奉仕者を指導し、結婚式、葬式等の諸式を執り行うことができるようになること。

＜授業の概要＞
主日礼拝の主要な要素や、主日礼拝以外の諸礼拝、結婚式、葬儀などについて、毎回テーマを定め、参加者の発表を通して学ぶ。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　礼拝学的思考の特質について
第２回　聖書における礼拝
第３回　宗教改革の礼拝
第４回　礼拝式、祝祷、司式の役割
第５回　礼拝の祈祷
第６回　賛美、礼拝音楽、奏楽
第７回　献金・奉献、礼拝奉仕
第８回　洗礼式、幼児洗礼と幼児祝福
第９回　聖餐礼典
第１０回　結婚式・婚約式
第１１回　葬儀
第１２回　礼拝堂、礼拝堂の使用
第１３回　教会暦と聖書日課
第１４回　教会学校の礼拝、学校礼拝
第１５回　オンライン礼拝、オンライン聖餐

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
それぞれのテーマについて自分なりの課題や意見を整理して演習に臨むこと。

＜テキスト＞
必要に応じて教室で指示または配布する。

＜参考書・参考資料等＞
由木康『礼拝学概論』新教出版社、2011 年。
J. F. ホワイト『キリスト教の礼拝』日本基督教団出版局、2000 年。
その他については第 1 回の授業時にテーマごとに紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
発表と授業への参加度によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①と③を重視する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
発表の準備にあたっても、発表そのものに対しても、その都度、助言、指導を行う。

実践神学研修課程		授業番号　ME121205
牧会学演習	古屋　治雄	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP2] 伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中で的確に対応することができる
[DP3] 教会やキリスト教学校等への赴任に向けた召命感が確立している

＜授業のテーマ＞
実践神学を牧師の働き全体像の中で捉え、牧師として身に付けるべき基本を学ぶ。

＜到達目標＞
牧会上の様々な場面で、ふさわしい対応ができるように基礎的な知識と実践力を持つことと、単に現実対応に留まらず、それらの対応を神学的に吟味する力をも身に付けることができるようになること。

＜授業の概要＞
牧師が担うべき教務、牧師が実践活動を行う場面を一つずつ取りあげ、参加者の発表を通して必要な知識と方法を身に付ける。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　牧師の全体像について
第２回　牧師の立つ法的基盤(教団教規、各個教会規則及び「伝統」)
第３回　礼拝に責任をもつ牧師(礼拝の組み立て及び説教)
第４回　牧師の面談、訪問(牧師主導の場合と要請を受ける場合)
第５回　信徒及び関係者の結婚に関しての牧師の役割(離婚、同性愛について)
第６回　信徒及び関係者の葬儀に関しての牧師の役割
第７回　病者への牧会、病床訪問
第８回　精神障害者の牧会
第９回　高齢者の牧会
第１０回　洗礼への導きと受洗準備、受洗後教育
第１１回　聖餐と牧会
第１２回　教会戒規をめぐって
第１３回　総会及び役員会での牧師の役割
第１４回　宗教法人上の教会管理に関して
第１５回　牧師の家庭とプライベートについて

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
授業で配布する資料や参考文献として挙げたものを読んでくること、またテーマについて自分なりの考えをまとめてくることなどを事前に指示する。

＜テキスト＞
必要に応じて事前に準備し、提示或いは配布する。

＜参考書・参考資料等＞
『E・トゥルナイゼン牧会学Ⅰ』、『牧会学Ⅱ』1961,1970(オンデマンド)　W・ウィリモン『牧師』(新教出版社 2007)
『牧師とは何か』(教団出版局 2013)　他は授業の中で紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
発表と授業への参加度によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①と③を重視する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
学生の個別の求めに対して対応する。また、授業での発表や発言に対して、必要に応じてテーマを遡って反芻するなど、学生の理解を深める指導をする。